Canon

Canon

EOS 7D

EOS 7D

使用説明書

J

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 7D は、有効画素数約1800万画素・高精細CMOSセンサー、デュアルDIGIC 4、視野率約100%ファインダー、高精度・高速19点AF（全点クロス測距）、約8コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影・Full HD（フルハイビジョン）動画撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（12、13ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

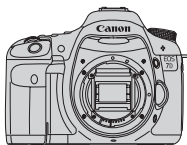
著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

CFカードについて

本書では、CFカードのことを「カード」と表記しています。なお、画像を記録する**CFカードは付属していません**。別途ご購入ください。

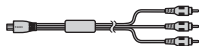
カメラと主な付属品

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（アイカップ、ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E6
（保護カバー付き）

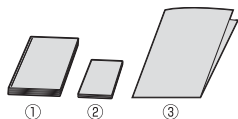
充電器
バッテリーチャージャー
LC-E6

ワイドストラップ
EW-EOS7D

インターフェースケーブル
IFC-200U

ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意

① **カメラ使用説明書**（本書）

② **ポケットガイド**
すぐに撮影したい方は、このガイドをご覧ください。

③ **CD-ROMガイド**
付属ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk）とソフトウェア使用説明書のガイドです。

※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈メイン電子ダイヤル〉 ：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈サブ電子ダイヤル〉 ：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈マルチコントローラー〉 ：マルチコントローラーを示しています。
〈SET〉 ：設定ボタンを示しています。
4／6／10／16 ：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU ：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 ：ページタイトル右の応用は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
* 全自動（□/CA）モードでは使用できない機能です。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
? ：困ったときの手助けになる事項を記載しています。
：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（p.27）。
- 〈サブ電子ダイヤル〉の操作は、サブ電子ダイヤルスイッチが〈／〉側になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

目　次

はじめに

1 撮影前の準備と操作の基本 23

2 かんたん撮影 49

3　画像に関する設定　57

4　AF ／ドライブの設定　83

5　撮影目的にあわせた応用撮影　95

機能目次

露出調整

ストロボ

ライブビュー撮影

動画撮影

画像再生

カスタマイズ

センサークリーニング／ダスト除去

ファインダー

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

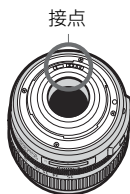
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、下記の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

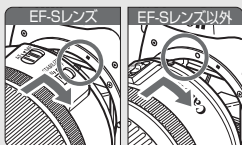
連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

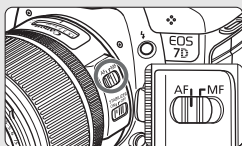
1

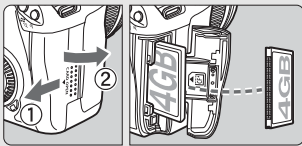
電池（バッテリー）を入れる
（p.26）

電池の充電方法については24ページを参照してください。

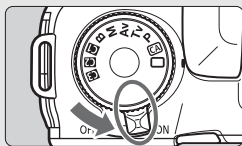
2

レンズを取り付ける（p.31）

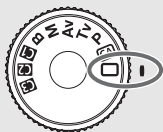
EF-Sレンズは白い指標、EF-Sレンズ以外は赤い指標に合わせて取り付けます。

3

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.31）

4

スロットカバーを開け、カードを入れる（p.29）

カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

5

電源スイッチを〈ON〉にする
（p.27）

6

モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.50）

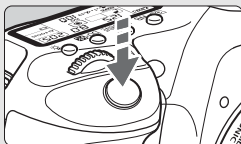
撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.35）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8

撮影する（p.35）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.56）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.162 ）。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.162）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.179）を参照してください。

各部の名称

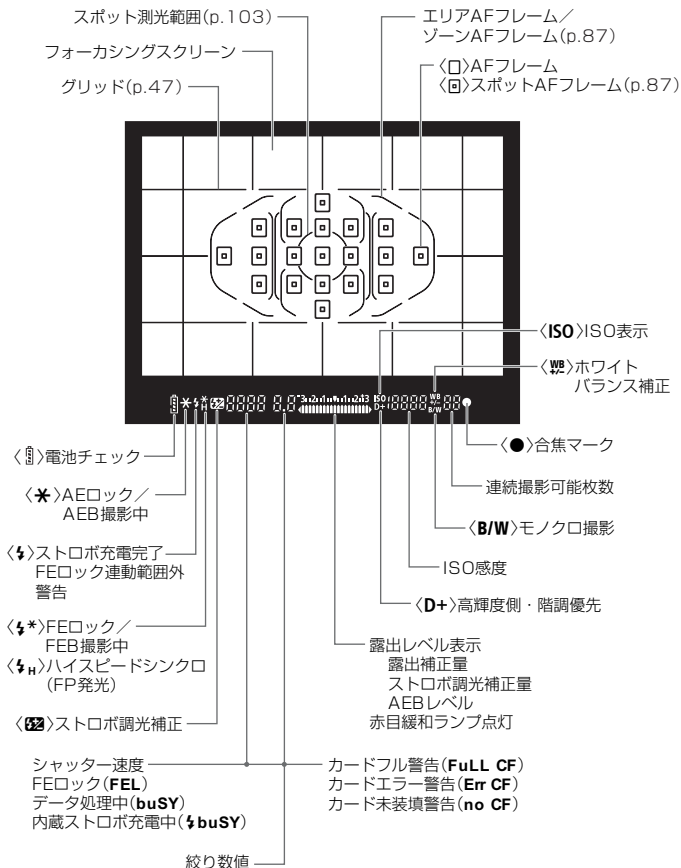
（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

ボディキャップ(p.31)

〈 / 〉ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ(p.131 ／ 149)
〈START STOP〉スタート・ストップボタン(p.132、150)
視度調整つまみ(p.34)
アイカップ(p.108)
ファインダー接眼部
スピーカー(p.171)
〈RAW JPEG ／ 〉ワンタッチRAW+JPEG ／イージープリントボタン(p.61 ／ 195)
電源スイッチ(p.27)
〈Q〉クイック設定ボタン(p.38)
〈MENU〉メニューボタン(p.40)
〈〉ピクチャースタイル選択ボタン(p.64)
〈INFO.〉インフォボタン(p.48、134、152、162、228)
〈〉再生ボタン(p.162)
〈〉消去ボタン(p.179)
拡張システム端子
液晶モニター(p.40、181)
三脚ねじ穴
サブ電子ダイヤルスイッチ(p.37)
外光センサー(p.181)
〈SET〉設定ボタン(p.40)
カードスロット(p.29)
カード取り出しボタン(p.30)
〈〉撮像面マーク
〈AF-ON〉AFスタートボタン(p.35、85、133、151)
〈 ／ 〉AEロックボタン／インデックス／縮小ボタン(p.106 ／ 165 ／ 167、197)
〈 ／ 〉AFフレーム選択／拡大ボタン(p.87 ／ 167、197)
〈〉マルチコントローラー(p.36)
ストラップ取り付け部(p.23)
カードスロットカバー(p.29)
電池室ふた開放レバー(p.26)
電池室ふた(p.26)
アクセスランプ(p.30)
〈〉サブ電子ダイヤル(p.37)
Canon
SET
LOCK
CARD OPEN
AF-ON
START STOP
MENU
INFO.
CF

表示パネル

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

カメラユーザー設定

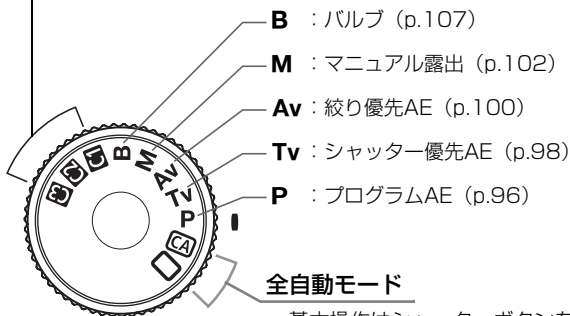
カメラに設定されているほとんどの内容を、C1、C2、C3に登録することができます（p.223）。

B：バルブ（p.107）

M：マニュアル露出（p.102）

Av：絞り優先AE（p.100）

Tv：シャッター優先AE（p.98）

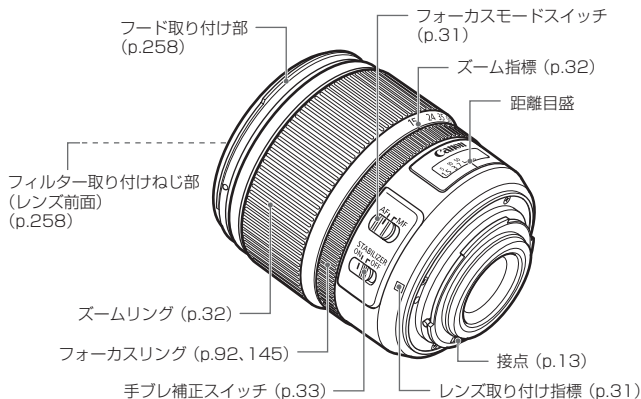
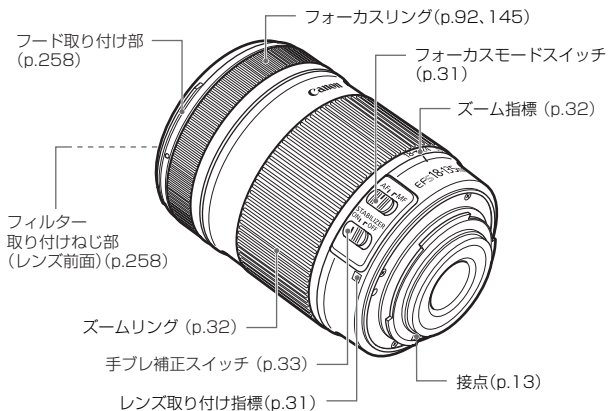
P：プログラムAE（p.96）

全自動モード

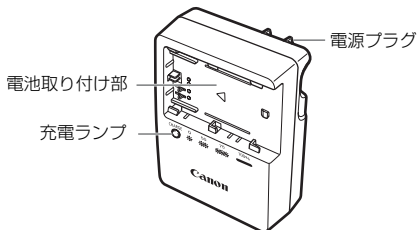
基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

□：全自動（p.50）

CA：クリエイティブ全自動（p.53）

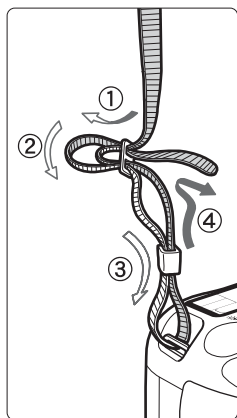
レンズ

距離目盛が付いているレンズの例

距離目盛が付いていないレンズの例

バッテリーチャージャー LC-E6

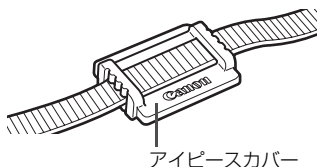
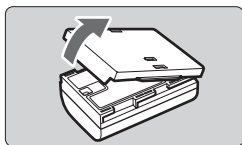
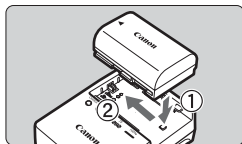
バッテリーパック LP-E6の充電器です（p.24）。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、有限責任中間法人JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

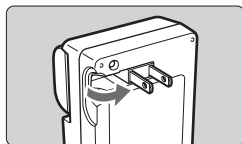
1

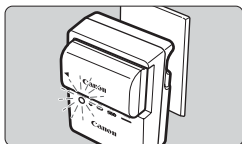
撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.108）。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

2 電池を取り付ける

● 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
● 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

● 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。
➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～50%	オレンジ	1回／秒：点滅
50～75%		2回／秒：点滅
75%以上		3回／秒：点滅
充電完了	緑	点灯

● **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
● 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長く（最長約4時間）になります。

電池と充電器の上手な使い方

- **充電は、使用する当日か前日にする**

  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**

  充電済みの電池に保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因になります。保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**

  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

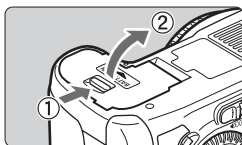
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

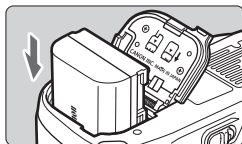
  電池の劣化度（p.230）を確認したうえで、新しい電池をお買い求めください。

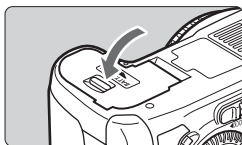
- バッテリー残容量（p.230）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。

電池を入れる／取り出す

入れ方

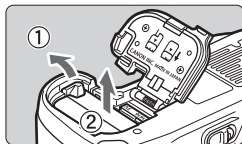
充電したバッテリーパック LP-E6をカメラに入れます。**このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を抜くと暗くなります。**

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

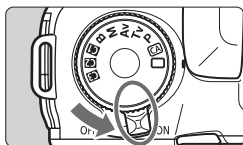
- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

- ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6以外は使用できません。

取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

電源を入れる

〈ON〉：カメラが作動します。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。なお、清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.35）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが故障ではありません。

オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約１分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.35）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［ オートパワーオフ］で変更することができます（p.44）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［書き込み中...］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅（）したら、もうすぐ電池切れになります。

表示						
残量（%）	100～70	69～50	49～20	19～10	9～1	0

撮影可能枚数の目安

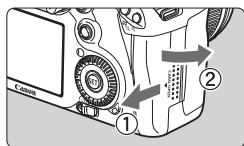
温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	約1000枚	約900枚
50%ストロボ撮影	約800枚	約750枚

- 撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップBG-E7使用時の撮影可能枚数は、カメラ単体時の約2倍になります（LP-E6×2個使用時）。単3形アルカリ乾電池使用時の撮影可能枚数（常温23℃）は、ストロボ撮影なしで約400枚、ストロボ50%使用で約300枚です。

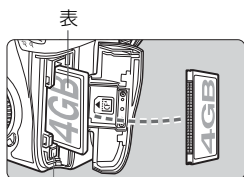
- 下記の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける。
  - ・AFのみ行って撮影しない操作を頻繁に行う。
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する。
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、133ページを参照してください。
- メニュー［**バッテリー情報**］で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.230）。
- バッテリーグリップ BG-E7に単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（［ / ］は表示されません）。

CFカードを入れる／取り出す

画像を記録するCF（コンパクトフラッシュ）カードには、厚さの異なる2種類のタイプがありますが、このカメラでは、どちらのタイプも使用できます。また、Ultra DMA（UDMA）対応のカードや、ハードディスクタイプのカードも使用できます。

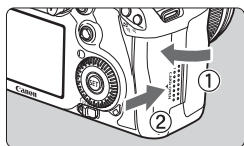
入れ方

1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。

表

カード取り出しボタン

2 カードを入れる

- **図のようにカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
  カードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。

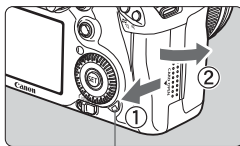
➡ カード取り出しボタンがせり出します。

撮影可能枚数

3 カバーを閉める

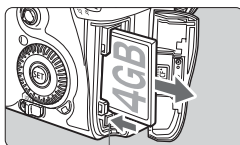
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

➡ 電源スイッチを〈ON〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- メニュー［カードなしレリーズ］を［しない］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.238）。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

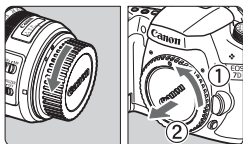
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**

カード取り出しボタン

2 カードを取り出す

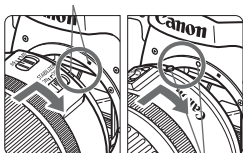
- カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ カードが出てきます。
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、カードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因になります。**
  - **・カードスロットカバーを開ける**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から撮影されないことがあります（p.80）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カードを初期化してください（p.43）。正常な状態に戻ることがあります。
- ハードディスクタイプのカードを手で持つときは、必ずカードの側面を持ってください。平面部分を持つとカードが壊れることがあります。また、振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

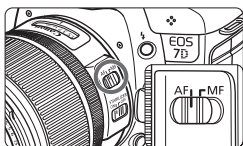
レンズを取り付ける／取り外す

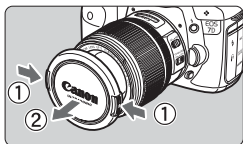
取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

EF-Sレンズ取り付け指標

EFレンズ取り付け指標

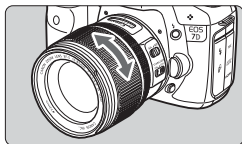
2 レンズを取り付ける

- EF-S レンズとカメラの白い EF-S レンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（自動ピント合わせ）にする

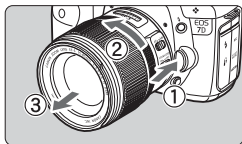
- 〈MF〉（手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

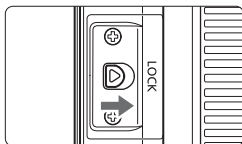
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

ズーム操作について

　ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

　ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EF-S18-200mm F3.5-5.6 ISをお持ちの方へ

　持ち運びの際にズームリングが動いて、レンズが伸び出ることを防ぐことができます。レンズをワイド端（18mm）にして、レンズ側面のズームリングロックレバーを〈**LOCK**〉方向にスライドさせます。ワイド端以外では、ロックできません。

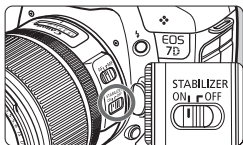
- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

レンズの手ブレ補正機能について

ISレンズに内蔵された手ブレ補正機能を使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

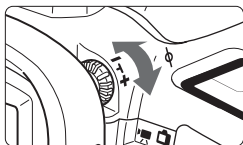
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
● EF28-135mm F3.5-5.6 IS USMでは、カメラを動かして流し撮りをすると、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉どちらのときでも働きます。
● 三脚使用時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすると、電池の消耗を防ぐことができます。
● 一脚使用時にも、手ブレ補正効果が得られます。
● 手ブレ補正機能付きレンズの中には、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードを任意に切り換えることができるレンズがありますが、EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USMとEF-S18-135mm F3.5-5.6 IS、EF-S18-200mm F3.5-5.6 ISでは、モード切り換えは自動的に行われます。

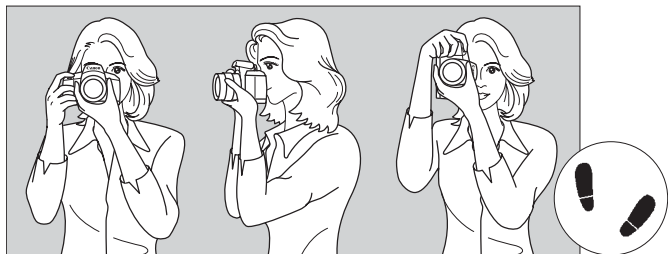
撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AF フレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.108）。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズEgの使用をおすすめします。

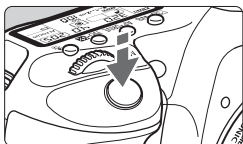
カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　　　　縦位置

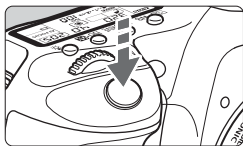
①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、131ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます（⏱4）。

全押し

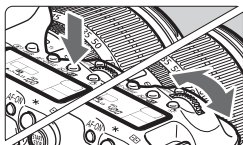
シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

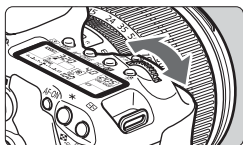
・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

メイン電子ダイヤルによる機能の選択と設定

(1) ボタンを押したあと、〈 〉を回す

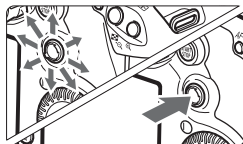
　ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。

　タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AFモード、ISO感度、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈 〉のみを回す

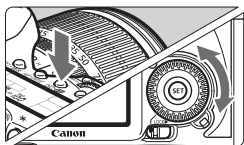
　ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

マルチコントローラー操作

　〈 〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

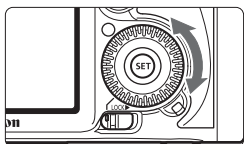
- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定画面の操作などに使用します。
  また、メニューの選択・設定を行うこともできます（［**画像消去**］と［**カード初期化**］を除く）。

◎ サブ電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈◎〉を操作するときは、サブ電子ダイヤルスイッチを〈/〉側にしてください。

(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

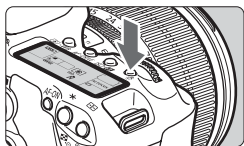
タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

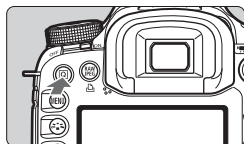
ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、サブ電子ダイヤルスイッチが〈LOCK▶〉の位置でも行うことができます。

表示パネルの照明

表示パネルの照明は、〈☀〉ボタンを押すたびに点灯（⏱6）／消灯します。バルブ撮影時は、シャッターボタン全押しで照明が消えます。

Q クイック設定画面の操作

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この画面を「クイック設定画面」といいます。

1 クイック設定画面を表示する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定画面の状態になります（⏱10）。

□（全自動）

P/Tv/Av/M/B

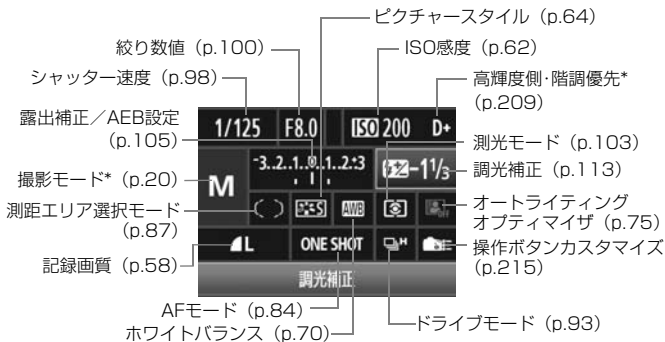
2 機能を設定する

- 〈✥〉で機能を選びます。
- 〈□〉（全自動）では、記録画質（p.58）とドライブモードの1枚撮影、セルフタイマー10秒/リモコン（p.93、110）を選ぶことができます。
- ➡ 選んだ内容の説明が、画面下側に表示されます。
- 〈◎〉または〈⌒〉を回して設定を変更します。

3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 液晶モニターが消灯して、撮影した画像が表示されます。

〈CA〉（クリエイティブ全自動）モードについては、53ページを参照してください。

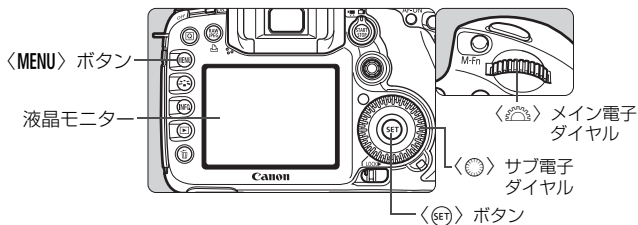
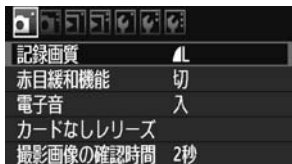
クイック設定画面の内容

*印の機能は、クイック設定画面からは設定できません。

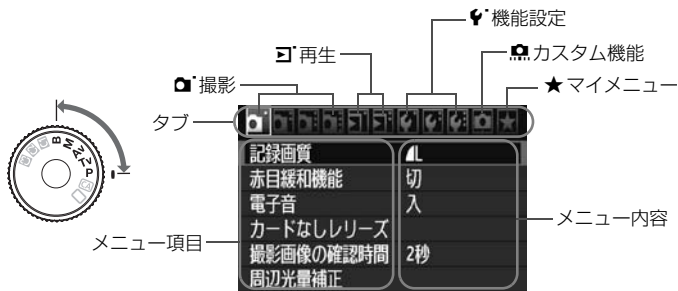
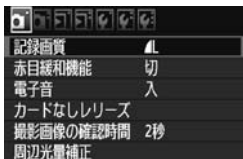
各機能の設定画面表示について

〈SET〉

- クイック設定画面で機能を選び、〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます（シャッター速度と絞り数値を除く）。
- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。
- 〈SET〉を押すと設定され、クイック設定画面に戻ります。

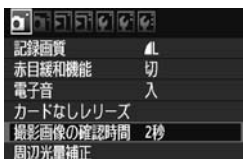
MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈main dial〉〈sub dial〉を使って行います。

全自動（□/CA）モードのメニュー画面

＊全自動モードでは、表示されないタブやメニュー項目があります。

P/Tv/Av/M/Bのメニュー画面

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

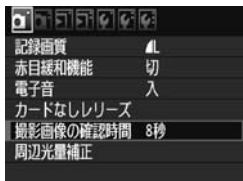
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈⌇〉を回してタブ（系統）を選びます。

3 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈◎〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 〈✣〉でメニュー機能の設定を行うこともできます。（[▶ 画像消去]、[✦ カード初期化] を除く）
- メニュー機能の一覧を238ページに記載しています。

使い始める前の準備

MENU 表示言語を設定する

1 ［言語］を選ぶ

- ［設定］タブの［**言語**］（上から3番目の項目）を選び、〈SET〉を押します。

2 言語を設定する

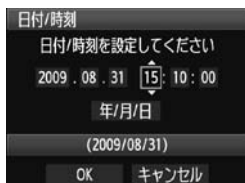
- 〈◎〉または〈ダイヤル〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

MENU 日付／時刻を確認する

日付と時刻を確認し、合っていないときは、次の手順で設定します。

1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［設定］タブの［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。

2 日付/時刻／日付表示順序を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、⇕ の状態にします。
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します（□ の状態に戻ります）。

3 設定を終了する

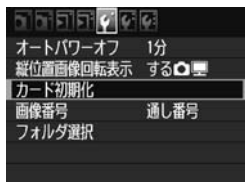
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

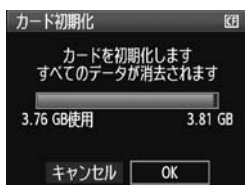
➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

> 撮影した画像には、日付/時刻が一緒に記録されますので、正しく設定してください。

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［ ］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- 〈 〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[**切**] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。

1 [オートパワーオフ] を選ぶ

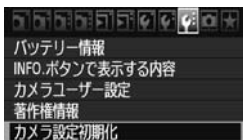
- [**ƒ'**] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈SET〉を押します。

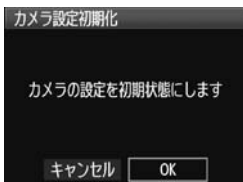
2 時間を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

[**切**] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- [🔧] タブの [**カメラ設定初期化**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [**カメラ設定初期化**] を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
測距エリア選択モード	19点自動選択AF
測光モード	◉（評価測光）
ISO感度	A（オート）
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	そのまま

画像記録関係

記録画質	◢L
ワンタッチ RAW+JPEG	RAW ◢L
ピクチャースタイル	スタンダード
オートライティング オプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
WB補正	解除
WB-BKT	解除
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定関係

項目	設定
ファインダー ⌗	表示しない
オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告	しない
AFフレーム表示	しない
ヒストグラム	輝度
での画像送り	10枚
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	自動：標準
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
INFO.ボタンで表示する内容	全項目選択
カメラユーザー設定	そのまま
著作権情報	そのまま
マイメニューの内容	そのまま

ライブビュー撮影関係

項目	設定
ライブビュー撮影	する
AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
露出Simulation	する
静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒

動画撮影関係

項目	設定
AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
動画記録サイズ	1920×1080 30
録音	する
静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒

グリッドと水準器を表示する

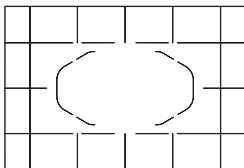
カメラの傾き補正に有効な、グリッドと水準器を表示させることができます。グリッドはファインダー内に、水準器は液晶モニターに表示させることができます。

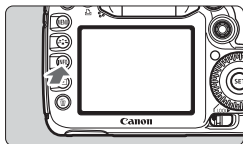
グリッドを表示する

1 ［ファインダー⌗］を選ぶ

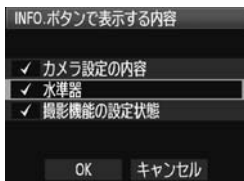
- ［𝛹:］タブの［ファインダー ⌗］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［表示する］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［表示する］を選び、〈SET〉を押します。
- ファインダー内にグリッドが表示されます。

ライブビュー撮影と動画撮影時にもグリッドを表示させることができます（p.136、156）。

液晶モニターに水準器を表示する

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。

- 水準器が表示されないときは、メニュー［¥: INFO.ボタンで表示する内容］の設定で、水準器が表示されるようにします（p.228）。

2 カメラの傾きを確認する

- 水平と、前後方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が、緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

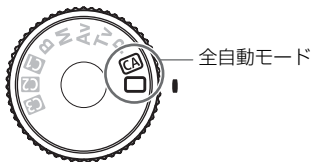
- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラを大きく傾けた状態では、水準器の誤差が大きくなります。

- ライブビュー撮影と動画撮影時にも、同じ操作で水準器を表示させることができます（p.134、152）。
- ファインダー内にも、AFフレーム表示を利用した水準器を表示させることができます（p.217、218、221）。

2

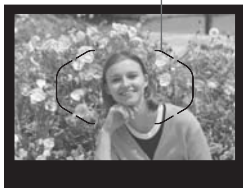
かんたん撮影

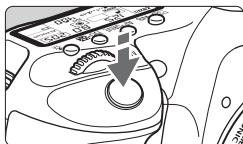
この章では、モードダイヤルの全自動（□/CA）モードを使って上手に撮影する方法を説明しています。

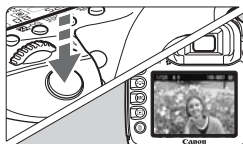
全自動（□/CA）モードでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます（p.236）。また、誤操作による失敗を防ぐため、主要な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

オートライティングオプティマイザ機能について

全自動（□/CA）モードでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能が働きます。どの撮影モードでも初期状態で機能します（p.75）。

□ 全自動で撮る

1 モードダイヤルを〈□〉にする

2 被写体（写したいもの）にエリアAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 暗い場所では、ファインダー内が一瞬赤く光ってAFフレームを照明します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

● **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームの中央を合わせてください（p.92）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● **複数のAFフレームが同時に表示される**

表示されているすべてのAFフレームにピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離は約4mです。

● **ストロボが発光したのに暗い写真になった**

写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

場面によっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する

〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

CA クリエイティブ全自動で撮る

〈□〉全自動モードは、すべてカメラまかせの撮影ですが、〈CA〉クリエイティブ全自動モードでは、写真の明るさや、ピントが合う範囲、写真の色あい（ピクチャースタイル）などを、わかりやすい操作で簡単に調整することができます。なお、初期状態の設定は、〈□〉（全自動）と同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

➡ 液晶モニターに、クリエイティブ全自動の画面が表示されます。

2 〈Q〉ボタンを押す

● 〈✣〉で機能を選ぶことができるようになります。（⏱10）

● 機能の内容については、54、55ページを参照してください。

3 機能を設定する

● 〈✣〉で機能を選びます。

➡ 選んだ内容の説明が、画面の下側に表示されます。

● 〈◎〉または〈⌒〉を回して設定を変更します。

4 撮影する

● シャッターボタンを押して撮影します。

撮影モードを切り換えたり、オートパワーオフ（p.44）や電源スイッチ〈OFF〉で電源が切れると、設定した内容が初期状態に戻ります。ただし、記録画質、およびセルフタイマー /リモコンの設定はそのまま保持されます。

①ストロボの発光

〈⚡A〉（ストロボ自動発光）、〈⚡〉（ストロボ発光）、〈⊛〉（ストロボ発光禁止）を選ぶことができます。

②背景をぼかす／くっきりさせる

カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。

なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。ストロボが上がっていると設定できません（灰色表示）。また、ストロボ撮影時は設定が無効になります。

③写真を暗くする／明るくする

カーソルを左に動かして撮影すると、暗い写真になります。右に動かして撮影すると、明るい写真になります。

④写真の仕上がり

S P L M

標準的な写真の仕上がりのほかに、人物、風景に適した仕上がりや、白黒写真を選ぶことができます（p.64：ピクチャースタイル）。

〈S〉（スタンダード）は、標準的な写真の仕上がりで、ほとんどのシーンに対応できます。

〈P〉（肌色がきれい）は、女性や子どもをアップで写すときに効果的です。

〈L〉（青空や緑が鮮やか）は、印象的な風景を写すときに効果的です。

〈M〉（モノクロ画像）は、白黒写真になります。

⑤1枚／連続／セルフタイマー撮影

〈〉（低速連続撮影）は、1秒間に最高約3枚の連続撮影をすることができます。

〈〉（セルフタイマー 10秒／リモコン）は、94ページの『セルフタイマー撮影』の（ノート）を参考にして撮影します。リモコン撮影も行うことができます（p.110）。

*〈AF・DRIVE〉ボタンを押すと［**ドライブモード**］選択画面が表示され、同じ内容を設定することができます。

⑥記録画質

L

58〜60ページの『記録画質を設定する』を参考にして設定します。〈SET〉を押すと［**記録画質**］選択画面が表示され、同じ内容を設定することができます。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

● ［◘˙］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで表示されます。

3

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、レンズの周辺光量補正など、画像に関係する機能設定について説明します。

- 全自動（□/CA）モードでは、この章の中の、記録画質の設定、レンズの周辺光量補正の設定、フォルダの作成と選択、画像番号の付け方の設定のみ、行うことができます。
- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、▟L、◢M、▟M、◢S、▟Sの6種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類で、撮影後に付属のソフトウェアで現像処理を行います（p.60）。

1 ［記録画質］を選ぶ

- ［◘˙］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。

2 記録画質を設定する

- RAWの記録画質は〈ダイヤル〉、JPEGの記録画質は〈◎〉を回して選びます。
- 画面の数字「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（999まで表示）を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋◢L

S RAW＋◢M

* RAWとJPEGの設定を、両方［−］にしたときは、◢Lに設定されます。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	約1790万（17.9M）	A2以上	6.6	593	94（126）
	▟L			3.3	1169	469（1169）
	◢M	約800万（8M）	A3程度	3.5	1122	454（1122）
	▟M			1.8	2178	2178（2178）
	◢S	約450万（4.5M）	A4程度	2.2	1739	1739（1739）
	▟S			1.1	3297	3297（3297）
RAW	RAW	約1790万（17.9M）	A2以上	25.1	155	15（15）
	M RAW	約1010万（10M）	A3程度	17.1	229	24（24）
	S RAW	約450万（4.5M）	A4程度	11.4	345	38（38）
RAW+JPEG	RAW ◢L	約1790万 約1790万	A2以上 A2以上	25.1+6.6	122	6（6）
	M RAW ◢L	約1010万 約1790万	A3程度 A2以上	17.1+6.6	164	6（6）
	S RAW ◢L	約450万 約1790万	A4程度 A2以上	11.4+6.6	217	6（6）

- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、高速連続撮影時の数値です。なお、（　）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）対応4GBカード使用時の枚数です。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、選んだ記録画質の画像がカードに同時に記録されます。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で保存されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生データ」です。RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます（本文中では、「RAW」と表記）。

RAW画像は、付属のソフトウェアで、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行ったあと、その調整を反映させたJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）について

前ページの「連続撮影可能枚数」は、初期化された4GBのカードを使用したときに、連続して何枚撮影できるかを示しています。

ファインダー内の右下の数字で、連続撮影できる枚数の目安（99枚以上のときは99）が確認できます。

- 連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。
- ［C.Fn II -2：**高感度撮影時のノイズ低減**］を［**2：強め**］に設定すると、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.208）。

連続撮影可能枚数が、ファインダー内で「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、59ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

ワンタッチRAW+JPEG 応用

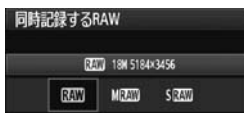
記録画質がJPEGだけのときに、〈RAW/JPEG〉ボタンを押して撮影すると、ここで設定したRAW（初期設定では RAW）が同時記録されます。逆に、記録画質がRAWだけのときは、ここで設定したJPEG（初期設定では ◢L）が同時記録されます。

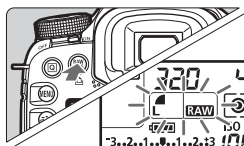
なお、58ページで、RAWとJPEGを同時記録する設定にしているときは、この機能は働きません。

1 ［ワンタッチRAW+JPEG］を選ぶ

- ［撮影タブ］タブの［ワンタッチRAW+JPEG］を選び、〈SET〉を押します。

2 RAWかJPEGを選ぶ

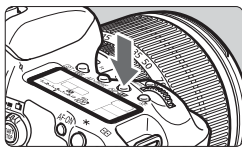
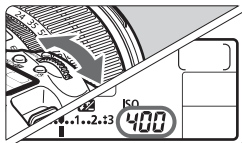
- 〈◎〉を回して RAW か JPEG を選び、〈SET〉を押します。

3 記録画質を設定する

- 〈◎〉を回して記録画質を選び、〈SET〉を押します。

4 撮影する

- 〈RAW/JPEG〉ボタンを押します。
- ➡ 表示パネルの記録画質が点滅します。〈RAW/JPEG〉ボタンをもう一度押すと解除されます。
- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影後、設定が解除されます。

- AEB 撮影やホワイトバランスブラケティング撮影と組み合わせることもできます。
- 設定解除は、〈Q〉，〈MENU〉，〈ピクチャースタイル〉，〈▶〉ボタンと、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ、電源スイッチ操作でも行われます。

ISO：ISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。全自動（□/CA）モードでは、ISO感度が自動設定されます（p.63）。

1 〈ISO・☒〉ボタンを押す（⏱6）

2 ISO感度を設定する

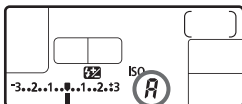
- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⚙〉を回します。
- ISO100～6400まで、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」を選ぶと、ISO感度が自動設定されます（p.63）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.112）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～6400、H	暗い屋内、夜景	

- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定すると、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります（p.209）。
- ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（横縞、輝点など）が目立つことがあります。

［C.Fn I -3：ISO感度拡張］を［1：する］に設定すると、「**H**」（ISO12800相当）も選択できるようになります（p.206）。

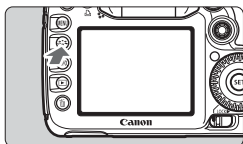
ISO感度の自動設定「A」（Auto）について

ISO 感度の設定が「**A**」のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
□/CA/**P**/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～3200
B	ISO400固定
ストロボ撮影時	ISO400固定*

* 日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100
* 撮影モードが〈**P**〉と全自動（□/CA）で、外部ストロボのバウンス時はISO400～1600自動設定

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

〈 〉（全自動）では、ピクチャースタイルの選択はできません。

1 〈 〉ボタンを押す

● 撮影準備状態で〈 〉ボタンを押します。

➡ ピクチャースタイル画面が表示されます。

2 スタイルを選ぶ

● 〈 〉または〈 〉を回してスタイルを選び、〈 〉を押します。

➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

メニュー［ ピクチャースタイル］から設定することもできます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

S スタンダード（CA：スタンダード）

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。〈 〉（全自動）のときに自動設定されます。

P ポートレート（CA：肌色がきれい）

肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。

66ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景（CA：青空や緑が鮮やか）

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ（CA：モノクロ画像）

白黒写真になります。

JPEGの記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

［**ポートレート**］や［**風景**］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.68）。登録されていないときは、［**スタンダード**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の上にある記号は、［**シャープネス**］［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている［**シャープネス**］［**コントラスト**］などの設定値を示しています。

記号の意味

記号	意味
	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。[**モノクロ**］の調整については、次ページを参照してください。

1 〈 〉ボタンを押す

2 スタイルを選ぶ

- 〈 〉または〈 〉を回してスタイルを選び、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 項目を選ぶ

- 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈 〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

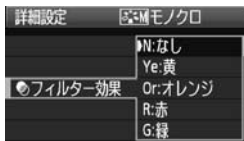
設定内容とその効果

項目		
シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

● 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
● 調整したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

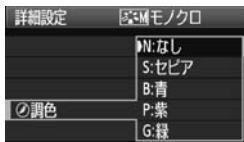
モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと､同じモノクロ画像でも､白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

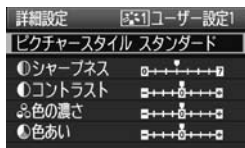
---

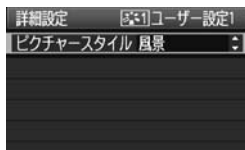
1 〈ピクチャースタイル〉ボタンを押す

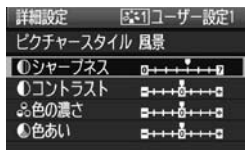
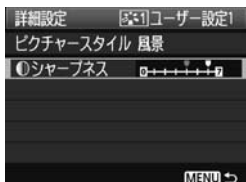
2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈INFO.〉ボタンを押します。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈サブ電子ダイヤル〉を回して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

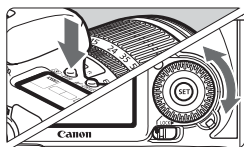
- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.66、67) を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ [**ユーザー設定***] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

[**ユーザー設定***] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

登録したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、[**ユーザー設定***] を選択してから撮影します。

WB:ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。全自動（□/CA）モードでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈◉・WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

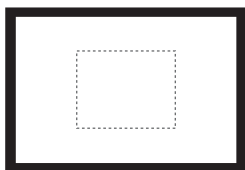
表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
▦	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	6000
⊿	マニュアル（p.71）	2000～10000
K	色温度（p.72）	2500～10000

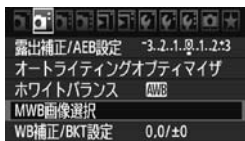
ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影できます。

メニュー［◘: ホワイトバランス］から設定することもできます。

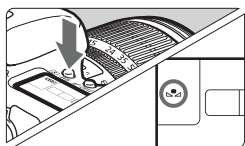
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1 白い被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［撮影2］タブの［MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面が表示されます。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回して手順 1 で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。
- メニュー画面に戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 〈測光・WB〉ボタンを押す（6）

5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈サブ電子ダイヤル〉を回して、〈マニュアルWB〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.65）は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈 〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色温度を設定する

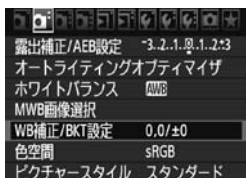
- 〈 〉を回して［K］を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2500～10000K（100Kステップ）です。

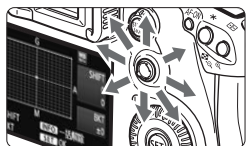
- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

WB+/- ホワイトバランスを補正する 応用

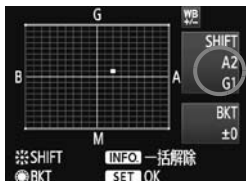
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

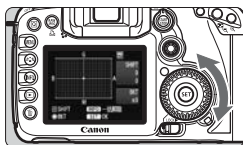
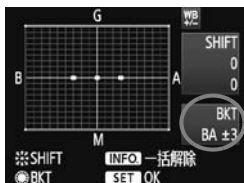
ホワイトバランス補正

1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［📷:］タブの［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。

設定例：A2, G1

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

- WB補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

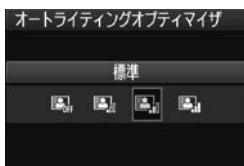
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。また、表示パネルのホワイトバランスマークが点滅します。
- ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU オートライティングオプティマイザ 応用

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストを補正することができます。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional で補正します。

初期状態では、[**標準**] に設定されています。

1 [オートライティングオプティマイザ] を選ぶ

- [📷] タブの [**オートライティングオプティマイザ**] を選び、〈SET〉 を押します。

2 補正内容を設定する

- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

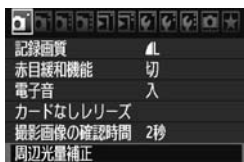
明るく補正された例

- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
- [**しない**] 以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正、マニュアル露出で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**しない**] を設定してください。

全自動（□/CA）モードでは、[**標準**] に自動設定されます。

MENU レンズの周辺光量を補正する

　レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「周辺光量の低下」といいますが、この現象を補正することができます。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで補正します。

　初期状態では、補正［**する**］に設定されています。

1 ［周辺光量補正］を選ぶ

- ［📷］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 表示される画面で、装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。
- 〈◎〉を回して補正［**する**］を選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

補正する

補正しない

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量が補正されます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書を参照してください。

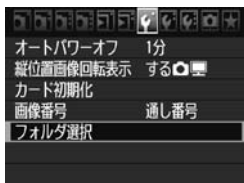
- 撮影したJPEG画像の周辺光量を、後から補正することはできません。
- 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。

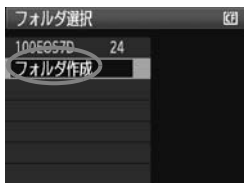
- エクステンダー装着時も周辺光量補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 ［フォルダ選択］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［フォルダ作成］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**フォルダ作成**］を選び、〈SET〉を押します。

フォルダ選択
フォルダ101を作成します
キャンセル OK

3 フォルダを作成する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、〈◎〉を回してフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

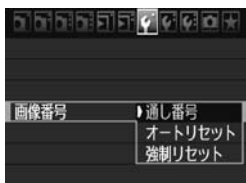
フォルダ名は、「**100EOS7D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.81）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

1 ［画像番号］を選ぶ

- ［ ］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像番号の付け方を選ぶ

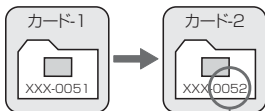
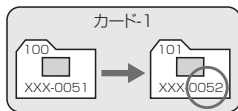
- 〈 〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

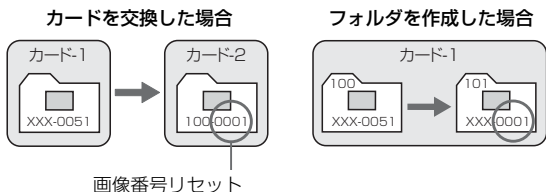
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_ 」、動画は「MVI_ 」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

全自動（□/CA）モードでは、sRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

● ［撮影2］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

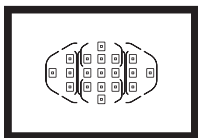
● ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

● 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
● ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

4

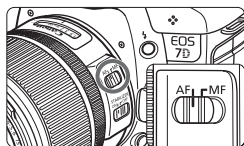
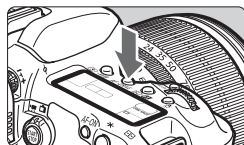
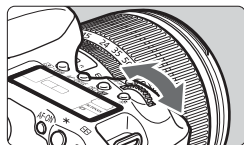
AF ／ドライブの設定

ファインダー内に配置された19点のAFフレームを活用して、様々な撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

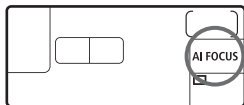
- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
- 全自動（□/CA）モードでは、AFモード、AFフレーム、ドライブモードが自動設定されます。

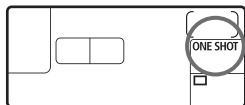
〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AFモードの選択応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、全自動（□/CA）モードでは、「AIフォーカスAF」に自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

3 AFモードを選ぶ

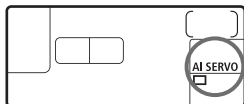
- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

AFフレーム　合焦マーク

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

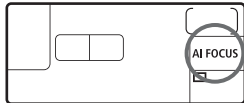
- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.92）を参照してください。
- メニュー［電子音］を［切］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

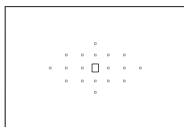
AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

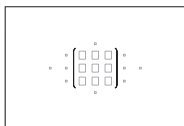
- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

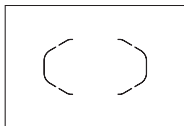
AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

測距エリアを選択する 応用

初期設定の測距エリア選択モード

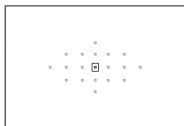
初期設定では、下記3種類の測距エリア選択モードを選択することができます。選択方法は、次ページを参照してください。

1点AF（任意選択）（p.89）

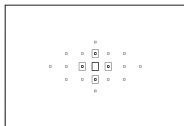
ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。

ゾーンAF（ゾーン任意選択）（p.90）

19点のAFフレームを、5つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。

19点自動選択AF（p.90）

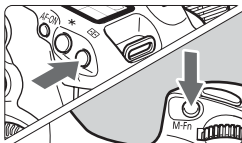
すべての AF フレームを使ってピント合わせを行います。全自動（□/CA）モードに設定されています。

カスタム機能で追加する測距エリア選択モード

［C.Fn III -6：測距エリア選択モードの限定］（p.212）で、下記2種類の測距エリア選択モードを加えることができます。

スポット1点AF（任意選択）（p.89）

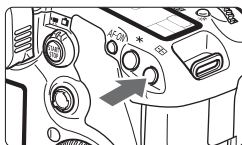
狭い部分にピントを合わせることができます。

領域拡大AF（任意選択）（p.89）

任意に選択した1点〈□〉と、それに隣接するAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。

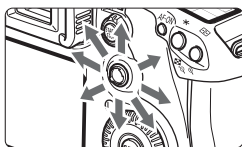
測距エリア選択モードを選ぶ

測距エリア選択モードを選ぶ

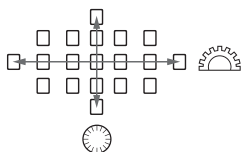
- 〈 〉ボタンを押します。（6）
- ファインダーをのぞきながら、〈M-Fn〉ボタンを押します。

➡ 〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。
初期設定では、1点AFとゾーンAF、19点自動選択AFが切り換わります。

AFフレームを任意選択する

1 〈 〉ボタンを押す（6）

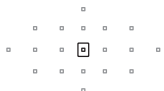
➡ ファインダー内に 19 点の AF フレームが表示されます。

- ゾーン AF のときには、選択されているゾーンも表示されます。

2 AFフレームを選択する

- 〈 〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈 〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（またはゾーン）が選択されます。
- 〈 〉と〈 〉でも選択できます。〈 〉で横方向、〈 〉で縦方向のAFフレームを選択することができます。

［C.Fn III -7：AFフレーム任意選択時の循環］で、［0：しない（端で突き当たり）］、［1：する］を選ぶことができます（p.212）。

測距エリア選択モードの内容

測距エリアの小さい順に説明しています。

①スポット1点AF（任意選択） C.Fn III -6

1点AFと同じですが、選択したAFフレーム〈▣〉で、より狭い部分にピントを合わせることができます。ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物を撮影するときなどに効果的です。

なお、スポットAFは測距範囲が狭いので、手持ち撮影や動きのある被写体では、ピントが合いにくいことがあります。

②1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点〈□〉を選択します。

③領域拡大AF（任意選択） C.Fn III -6

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、それに隣接するAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAFでは、初めに任意選択したAFフレーム〈□〉で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

ワンショットAFでは、領域拡大したAFフレームでピントが合うと、任意選択したAFフレーム〈□〉に加えて、そのAFフレーム〈□〉も表示されます。

④ゾーンAF（ゾーン任意選択）

19点のAFフレームを、5つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行いますので、1点AFや領域拡大AFよりもピントが合いやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせますので、1点AFや領域拡大AFよりも狙った被写体にピントが合いにくいことがあります。

ワンショットAFでは、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。

⑤19点自動選択AF

すべてのAFフレームを利用してピント合わせを行います。全自動（□/CA）モードに自動設定されています。

ワンショットAFでは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。

AIサーボAFでは、初めに任意選択（p.88）したAFフレーム〈□〉でピントを合わせます。全自動（□/CA）モードでは設定できません。

19点自動選択AFとゾーンAFでは、AIサーボAF時にピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいなど、撮影条件によっては、追従しない場合があります。また、低温下では、追従応答性が遅くなります。

- ［C.Fn III -12 ：**縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［1：**別々に設定**］にすると、測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（ゾーンAF時は選択したゾーン）を、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができるようになります（p.214）。
- ［C.Fn III -10：**AIサーボ/MF時のフォーカス表示**］を［**しない**］に設定すると、AIサーボAF測距中のAFフレーム〈□〉表示をしなくすることができます。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、〈⚡〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

使用レンズの明るさとAF測距について

F5.6より明るいレンズ使用時

すべてのAFフレームで十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。

F2.8より明るいレンズ使用時*

中央AFフレームでより高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。中央AFフレームでは、他のAFフレームの約2倍の敏感度で縦横線検出が行われます。

残る18点のAFフレームでは、F5.6より明るいレンズ使用時と同じ十字測距になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mm F2.5コンパクトマクロを除く

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない(合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

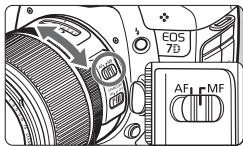
ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.52）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

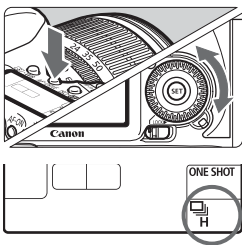
1 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする**

2 **ピントを合わせる**

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームが表示され、合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択 応用

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。〈□〉（全自動）では、1枚撮影に自動設定されます。

1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 ドライブモードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

□ ：**1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

H：**高速連続撮影**（最高約8コマ／秒）

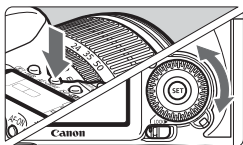
 ：**低速連続撮影**（最高約3コマ／秒）
シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

 ：**セルフタイマー 10秒/リモコン撮影**

2：**セルフタイマー 2秒/リモコン撮影**
セルフタイマー撮影については次ページ、リモコン撮影については110ページを参照してください。

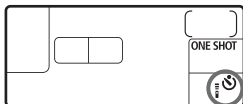
● 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。
● AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。
● 室内や暗い場所では、高速シャッターが設定されていても、連続撮影速度が低下することがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。〈10秒タイマー〉（10秒タイマー）は、どの撮影モードでも使用できます。

1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 セルフタイマーを選ぶ

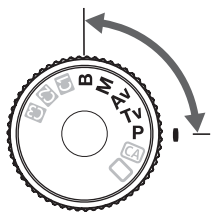
- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回して選びます。

10秒タイマー：10秒後に撮影
2秒タイマー：2秒後に撮影 応用

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

- 〈2秒タイマー〉セルフタイマー2秒は、三脚を使用した静物撮影や長秒時撮影などで、撮影開始時に、カメラから手を離しておきたい（カメラをぶらしたくない）ときに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.162）。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.108）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.52）。
- セルフタイマー撮影を中止するときは、〈AF・DRIVE〉ボタンを押します。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

P/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、モードダイヤルが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときに使用できる機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。
- **P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』(p.236) を参照してください。

あらかじめサブ電子ダイヤルスイッチを〈╱〉側にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈**P**〉にする

2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

3 表示を確認する

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈**P**〉と〈□〉（全自動）の違いについて

〈□〉では、失敗を防ぐために、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉では、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなどの機能は自由に設定することができます（p.236）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈 〉を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

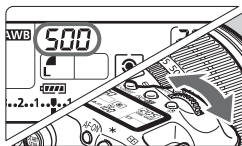
Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

動きを止めた写真
（速いシャッター速度）

流動感のある写真
（遅いシャッター速度）

1 **モードダイヤルを〈Tv〉にする**

2 **シャッター速度を設定する**

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 **ピントを合わせる**

- シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 **表示を確認して撮影する**

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

● 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

● 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

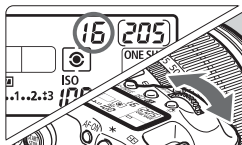
Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値）

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値）

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

30 16 ISO 100 50●

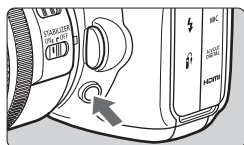
4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈⚙〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

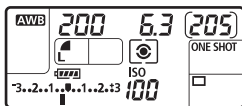
ピントの合う範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う奥行き（被写界深度）をファインダーで確認できます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーが暗くなります。
- 被写界深度の効果は、ライブビュー映像を見ながら絞り数値を変えて、絞り込みボタンを押すとよくわかります（p.132）。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 自分で露出を決めて撮る

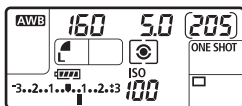
自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈⚙〉を回して設定します。
- 絞り数値は、サブ電子ダイヤルスイッチを〈/〉側にして、〈◎〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

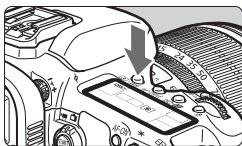
- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

4 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

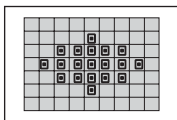
5 撮影する

メニュー［**◘ オートライティングオプティマイザ**］（p.75）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。

[◉] 測光モードの選択 応用

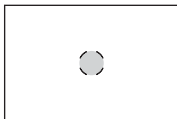
被写体の明るさを測る機能の特性を４種類の中から選ぶことができます。全自動（□/CA）モードでは、評価測光に自動設定されます。

1 **〈◉・WB〉ボタンを押す**（⏱6）

2 **測光モードを選ぶ**

● 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。

◉ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約9.4%の範囲を測光します。

スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約2.3%を測光します。設定すると、ファインダーにスポット測光範囲が表示されます。

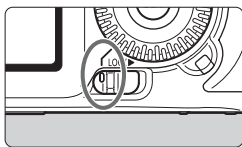
[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを露出補正といいます。

補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段ですが、表示パネルとファインダー内の露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、次ページのメニュー［**露出補正／AEB設定**］で行うことをおすすめします。

1 モードダイヤルを〈P/Tv/Av〉のいずれかにする

2 サブ電子ダイヤルスイッチを〈〉側にする

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

3 補正量を設定する

- シャッターボタンを半押ししたあと（4）、〈〉を回して設定します。

4 撮影する

- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈〉の位置に戻します。

メニュー［**オートライティングオプティマイザ**］(p.75）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 不用意に〈〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。サブ電子ダイヤルスイッチを〈LOCK▶〉の位置にすると安全です。
- ±3段を越える設定をしたときは、露出レベル表示の端が〈〉または〈〉表示になります。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

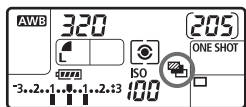
露出補正/AEB設定　-3..2..1..0..1..2.:3
オートライティングオプティマイザ

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［ ］タブの［**露出補正／ AEB 設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈 〉を回すと AEB レベルが設定できます。
- 〈 〉を回すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影されます。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈 〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

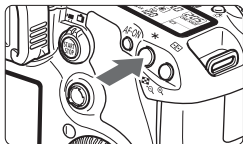
- 手順1、2の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボの充電完了で自動解除されます。

- ドライブモードが〈□〉のときは、シャッターボタンを3回押して撮影します。〈□H〉〈□〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈 〉〈 2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

⋇ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈⋇〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈⋇〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈⋇〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈⋇〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈⋇〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

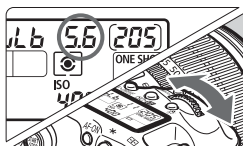
AEロックの効果

測光モード（p.103）	AFフレーム選択（p.87）	
	自動選択	任意選択
[◉]*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[◎] [•] [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

B: 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈B〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。

3 撮影する

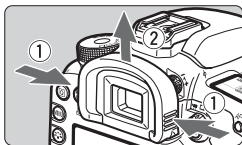
- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

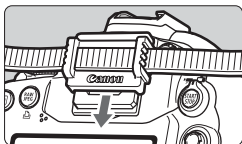
露光経過時間

- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ［C.Fn II -1：長秒時露光のノイズ低減］を［1：自動］または［2：する］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを軽減することができます（p.208）。

- バルブ撮影を行うときは、リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。
- リモコン（別売／ p.110）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモコンの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。

アイピースカバーを併用する

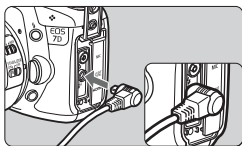
ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.23）を使います。なお、ライブビュー撮影と動画撮影では、アイピースカバーの取り付けは必要ありません。

1 アイカップを取り外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

リモートスイッチの取り付け方

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を持つEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます。

なお、アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

［C.Fn III -13：ミラーアップ撮影］を［1：する］に設定すると、ミラーアップ撮影ができます（p.215）。

1 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

2 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［1：する］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1 枚撮影になります。
- セルフタイマー〈<self-timer>〉または〈<self-timer 2>〉を使用すると、10秒後、または2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、リモートスイッチ　RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。
- リモコン（別売／p.110）を使ってミラーアップ撮影を行うこともできます。リモートコントローラー RC-1を使うときは、リモコン側のスイッチを「2秒後」に設定して撮影することをおすすめします。

リモコン撮影

RC-1

RC-5

リモートコントローラー RC-1／RC-5（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。RC-1は「すぐに撮影」と「2秒後撮影」、RC-5は「2秒後撮影」ができます。

---

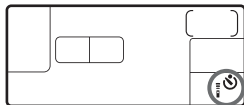
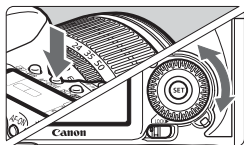
1 ピントを合わせる

2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

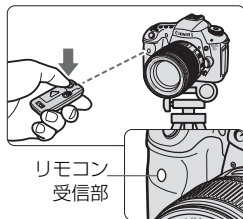
● 〈AF〉で撮影することもできます。

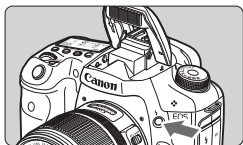
3 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

4 セルフタイマーを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、〈リモコン・セルフタイマー〉または〈リモコン・セルフタイマー2〉を選びます。

5 リモコンの送信ボタンを押す

● リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。

➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

> 蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の影響でカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

ϟ 内蔵ストロボを使った撮影

P/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードでは、**〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけ**でストロボ撮影ができます。内蔵ストロボは、手で押し下げて収納します。〈□〉（全自動）は自動発光（p.50）、〈CA〉は自動発光と強制発光を選択することができます（p.53）。

P/**Tv**/**Av**/**M**/**B** の撮影モードのストロボ撮影では、シャッター速度と絞り数値の関係が、下記のようになります。どの撮影モードでも、手動設定、または自動設定された絞り数値に対してE-TTL II 自動調光制御が行われます。

撮影モード	シャッター速度	絞り数値
P	1/250秒～1/60秒自動設定	自動設定
Tv	手動で1/250秒～30秒設定	自動設定
Av	自動設定 ［**C.Fn I -7：Avモード時のストロボ同調速度**］（p.207）で下記の自動設定範囲が選択可能。 ・0：自動* ・1：1/250～1/60秒自動 ・2：1/250秒固定	手動で設定
M	手動で1/250秒～30秒設定	手動で設定
B	シャッターボタンを押している間、露光を行います。	手動で設定

* 通常は明るさに応じて1/250～30秒が自動設定されます。暗いところでは、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真（自動スローシンクロ撮影）になります。シャッター速度が遅くなったときは、三脚の使用をおすすめします。

内蔵ストロボの届く距離

[約・m]

絞り数値	ISO感度							
	100	200	400	800	1600	3200	6400	H:12800
F3.5	3.5	5	7	9.5	14	19	27	39
F4	3	4	6	8.5	12	17	24	34
F5.6	2	3	4.5	6	8.5	12	17	24

- 近距離側のストロボ撮影は、1mから行うことができます。
- レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れてください。
- レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、画面の下側が暗くなることがあります。なお、望遠レンズや大口径レンズを使用していて現象が改善されない場合は、EXシリーズスピードライト（別売）の使用をおすすめします。

MENU 赤目緩和機能を使う

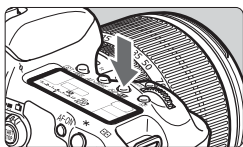
ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

- ［◘˙］タブの［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。［**入**］を選び〈SET〉を押します。
- ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

- 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。

- 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

ストロボ調光補正 応用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

1 〈ISO・〉ボタンを押す（6）

プラス補正

マイナス補正

2 補正量を設定する

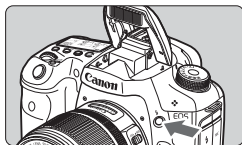
- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈〉を回します。
- ストロボ調光補正を解除するときは、補正量の設定を〈〉の位置に戻します。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに〈〉が表示されます。

3 撮影する

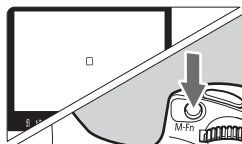
- メニュー［ オートライティングオプティマイザ］（p.75）が、［しない］以外に設定されているときは、露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。
- カメラ側と EX シリーズスピードライト側でともに調光補正を行ったときは、スピードライト側の設定が優先されます。EXシリーズスピードライト側で調光補正が行われていると、カメラ側で調光補正を行っても、カメラで設定した内容は撮影結果に反映されません。

- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- EXシリーズスピードライト使用時も同じ操作で、カメラからスピードライトの調光補正ができます。

M-Fn: FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

1 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げる

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

3 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱16）

- ファインダーの中央に被写体をおいて、〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ*〉が点灯します。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

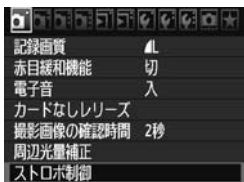
4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

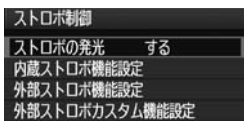
> 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

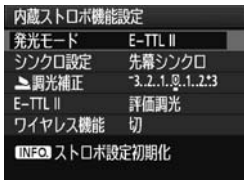
内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面から行うことができます。なお、外部ストロボに関するメニュー［**外部ストロボ*****］は、**その機能に対応したEXシリーズスピードライト装着時**のみ有効です。

設定操作の方法は、カメラのメニュー機能と同じです。

［ストロボ制御］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

［ストロボの発光］について

- 通常は、［**する**］を選びます。
- **［しない］を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

［内蔵ストロボ機能設定］と［外部ストロボ機能設定］

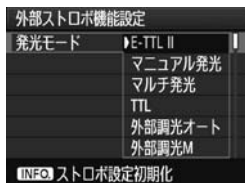
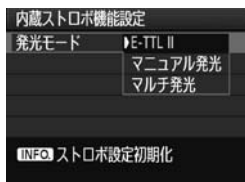
［**内蔵ストロボ機能設定**］と［**外部ストロボ機能設定**］では、次のページに示す機能を設定することができます。なお、［**外部ストロボ機能設定**］で表示される機能は、ストロボの種類によって異なります。

- ［**内蔵ストロボ機能設定**］または［**外部ストロボ機能設定**］を選びます。
- ➡ 機能が表示されます。明るく表示されている機能が選択／設定できます。

[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定] で設定できる機能

<table>
<tr><th>機能</th><th>[内蔵ストロボ機能設定]</th><th>[外部ストロボ機能設定]</th><th>参照頁</th></tr>
<tr><td>発光モード</td><td colspan="2">○</td><td>116</td></tr>
<tr><td>シンクロ設定</td><td colspan="2">○</td><td>117</td></tr>
<tr><td>FEB*</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr>
<tr><td>調光補正</td><td colspan="2">○</td><td>113</td></tr>
<tr><td>E-TTL II</td><td colspan="2">○</td><td>117</td></tr>
<tr><td>ズーム*</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr>
<tr><td>ワイヤレス設定</td><td colspan="2">○</td><td>119</td></tr>
</table>

* [**FEB**] (フラッシュエクスポージャーブラケティング)、[**ズーム**] については、それぞれの機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● 発光モード

撮影目的に応じて発光モードが選択できます。

- [**E-TTL II**] は、ストロボの自動撮影ができる、EXシリーズスピードライトの標準的なモードです。
- [**マニュアル発光**] は、ストロボの [**発光量**] (1/1〜1/128) を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。
- [**マルチ発光**] は、ストロボの [**発光量**] と [**発光周波数**]、[**発光回数**] を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。
- そのほかの発光モードについては、その発光モードに対応した外部ストロボの使用説明書を参照してください。

マルチ発光での繰り返し撮影は、発光部の発熱と劣化を防ぐため連続10回までにしてください。10回撮影したら、10分以上休止してください。なお、EXシリーズスピードライトの中には、11回以上の繰り返し撮影を行うと、発光部保護のため、発光が停止する機種があります。その場合は15分以上休止してください。

● **シンクロ設定**

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、撮影終了直前にストロボが発光します。低速シャッターと組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。また、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。なお、シャッター速度が1/30秒以上のときは、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

外部ストロボ使用時は、［**ハイスピード**］も選択できます。詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● **調光補正**

113ページの『 ストロボ調光補正』を参照してください。

● **E-TTL II**

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。

［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な、上級者向けの設定です。

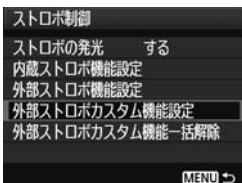
● **ワイヤレス設定**

119ページの『ワイヤレスストロボ撮影』を参照してください。

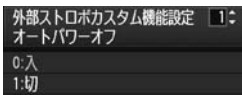
● **ストロボ設定の初期化**

［**内蔵ストロボ機能設定**］または［**外部ストロボ機能設定**］の画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ストロボ設定の初期化画面が表示されます。［**OK**］を選ぶとストロボの設定が初期化されます。

外部ストロボカスタム機能を設定する

ストロボ制御
ストロボの発光　する
内蔵ストロボ機能設定
外部ストロボ機能設定
外部ストロボカスタム機能設定
外部ストロボカスタム機能一括解除
MENU ↩

1 カスタム機能を表示する

- ［**外部ストロボカスタム機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

外部ストロボカスタム機能設定　1
オートパワーオフ
0:入
1:切

2 カスタム機能を設定する

- 〈◎〉を回して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（p.204）。
- カスタム機能をすべて解除するときは、手順1で［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］を選びます。

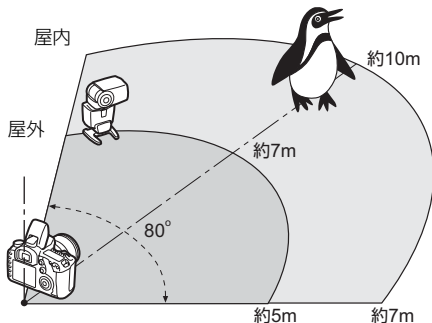
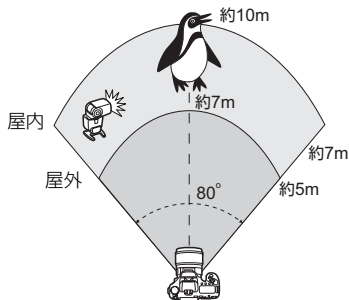
ワイヤレスストロボ撮影 応用

　このカメラの内蔵ストロボは、ワイヤレススレーブ機能を備えたキヤノン製スピードライトを、ワイヤレス制御で発光させることができる「マスター」機能を備えています。スピードライト使用説明書の、ワイヤレスストロボ撮影に関する説明と注意も必ずお読みください。

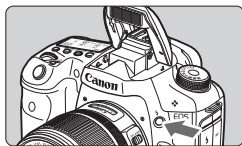
スレーブの設定と配置

　お手持ちのスピードライト（以下、スレーブ）使用説明書を参照し、スレーブに対して下記の設定を行います。なお、下記設定以外のスレーブ制御は、すべてカメラ側で行います。異なる種類のスレーブが混在していても制御することができます。

①ストロボをスレーブに設定する。
②カメラと同じ通信チャンネルを設定する。
③光量比制御（p.124）**を行うときは、スレーブIDを設定する。**
④下図の範囲内にカメラとスレーブを配置する。
⑤スレーブのワイヤレス受信部をカメラに向ける。

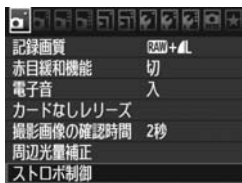
ワイヤレスストロボ撮影の例

外部ストロボ1灯の全自動撮影

外部ストロボ1灯を使った、最も基本的な全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

手順1～3と6～8の操作は、すべてのワイヤレスストロボ撮影に共通していますので、以降の説明では省略しています。

メニュー画面の〈外部ストロボ〉〈外部ストロボ〉は外部ストロボを、〈内蔵ストロボ〉〈内蔵ストロボ〉は内蔵ストロボを表しています。

1 〈⚡〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げる

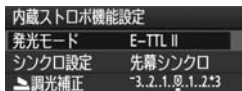
- ワイヤレスストロボ撮影のときは、必ず内蔵ストロボを上げてください。

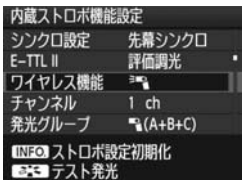
2 ［ストロボ制御］を選ぶ

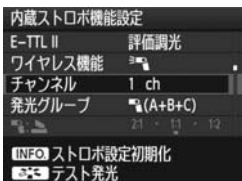
- ［撮影］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。

ストロボ制御
ストロボの発光 する
内蔵ストロボ機能設定

3 ［内蔵ストロボ機能設定］を選ぶ

- ［**内蔵ストロボ機能設定**］を選び〈SET〉を押します。

内蔵ストロボ機能設定
発光モード E-TTL II
シンクロ設定 先幕シンクロ
調光補正 -3..2..1..0..1..2.+3

4 ［発光モード］を選ぶ

- ［**発光モード**］の［**E-TTL II**］を選び、〈SET〉を押します。

5 [ワイヤレス機能] を選ぶ

- [ワイヤレス機能] の [ ] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [ワイヤレス機能] の下に [チャンネル] などが表示されます。

6 [チャンネル] を設定する

- スレーブと同じ通信チャンネル（1～4chのいずれか）を設定します。

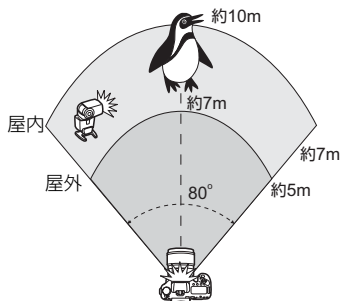
7 テスト発光を行う

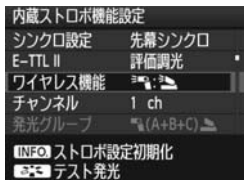
- スレーブの充電を確認してから、手順5の画面で〈 〉ボタンを押します。
- ➡ スレーブが発光します。発光しない場合は、設定を再確認してください(p.119)。

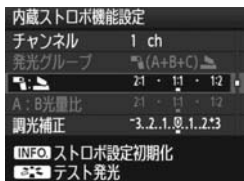
8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、[ワイヤレス機能] を [切] に設定します。

- テスト発光は、スレーブのオートパワーオフ状態を解除するときにも使用します。
- [E-TTL II] の設定は [評価調光] をおすすめします。
- 外部ストロボ1灯の撮影では [発光グループ] は、どの設定でも関係ありません。
- スレーブの制御は、内蔵ストロボの光パルス信号で行われます。
- **[発光モード] の [マルチ発光] では、ワイヤレスストロボ撮影はできません。**

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボの全自動撮影

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使った全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

外部ストロボと内蔵ストロボの光量比（発光量の割合）を変えて、被写体にできる影の出方を調整することができます。

1 ［ワイヤレス機能］を選ぶ

- 121 ページの手順 5 で［ワイヤレス機能］の［ : ］を選び、〈SET〉を押します。

2 光量比を設定して撮影する

- ［ : ］を選び、8：1〜1：1の範囲で光量比を設定します。1：1より右側は、設定できません。
- ストロボの発光量が足りないときは、ISO感度を上げてください（p.62）。

光量比の8:1〜1:1は、段数換算で3:1〜1:1（1/2段ステップ）に相当します。

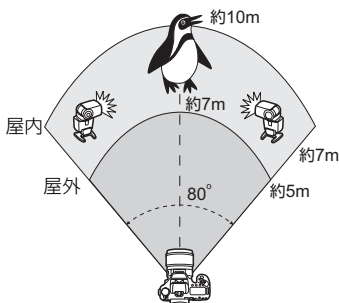
複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

複数のスレーブを1つのストロボとみなして発光させたり、グループ分けして光量比を変えて撮影することができます。

基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、さまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

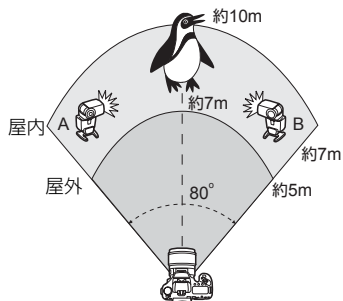
下記の基本設定を行う

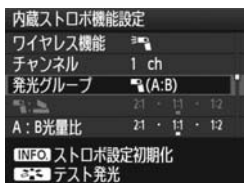
発光モード　　：E-TTL II
E-TTL II　　　：評価調光
ワイヤレス機能：
チャンネル　　：（スレーブと同じ）

［ (A+B+C)］複数のスレーブを1つのストロボとして発光させる

大きな発光量が必要なときに設定します。すべてのストロボが同じ光量で発光し、標準露出になるよう制御が行われます。

スレーブIDがA, B, Cのどれに設定されていても、同グループのストロボとして発光します。

［発光グループ］を［ (A+B+C)］に設定して撮影する

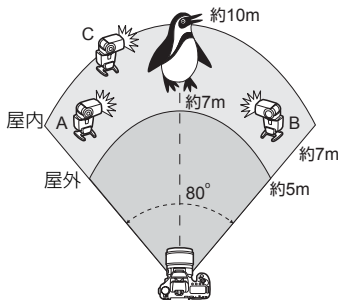
[(A:B)] 複数のスレーブをグループ分けして発光させる

スレーブをAとBの 2グループに分け、光量比を変えてライティングを調整することができます。

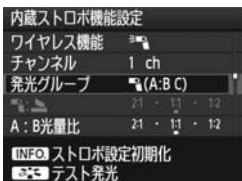
お手持ちのスピードライト使用説明書を参照し、片方のスレーブをスレーブID：A（Aグループ）、もう片方のスレーブをスレーブID：B（Bグループ）に設定して図のように配置します。

1 [発光グループ] を [(A:B)] に設定する

2 光量比を設定して撮影する

- [A:B光量比] を選び、光量比を設定します。

光量比の8：1～1：1～1：8は、段数換算で3：1～1：1～1：3（1/2段ステップ）に相当します。

[(A:B C)] 複数のスレーブをグループ分けして発光させる

前ページ [(A:B)] の応用です。グループA, Bの発光で生じた被写体背後の影を、グループCの発光によって消すといったライティングを想定しています。

お手持ちのスピードライト使用説明書を参照し、3つのスレーブをスレーブID:A (Aグループ)、B (Bグループ)、C (Cグループ) に設定して図のように配置します。

1 [発光グループ] を [(A:B C)] に設定する

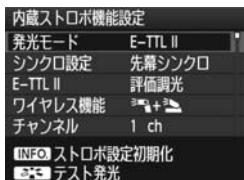
2 光量比を設定して撮影する

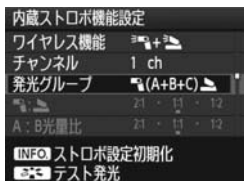
- [A:B光量比] を選び、光量比を設定します。
- 撮影結果に応じてCグループの調光補正を行います。

- [発光グループ]を [(A:B)] に設定すると、Cグループのストロボは発光しません。
- Cグループのストロボを主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

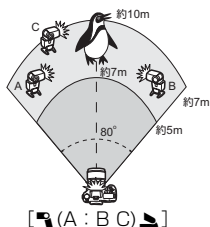
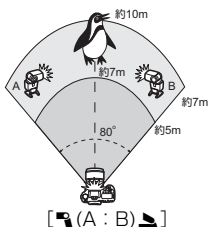
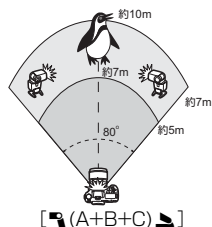
内蔵ストロボと複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

119～125ページのワイヤレスストロボ撮影に、内蔵ストロボを加えることができます。

基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、内蔵ストロボを加えたさまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

1 下記の基本設定を行う

発光モード ：E-TTL II
E-TTL II ：**評価調光**
ワイヤレス機能 ：［ + ］
チャンネル ：（スレーブと同じ）

2 ［発光グループ］を選ぶ

- 発光グループを選び、光量比や調光補正などの必要な設定を行って撮影します。

［(A+B+C)］　［(A：B)］　［(A：B C)］

応用ワイヤレスストロボ撮影

ストロボ調光補正

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに設定することができます。なお、設定できる調光補正の項目（下記参照）は、［**ワイヤレス機能**］と［**発光グループ**］の設定内容によって変わります。

［調光補正］

● 内蔵、外部の全ストロボに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

［調光補正］

● 内蔵ストロボに対して、調光補正を行うことができます。

［調光補正］

● 全外付けストロボに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

［A,B調光補正］

● A, B両グループに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

［Cグループ調光補正］

● Cグループに対して、調光補正を行うことができます。

FEロック

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに、〈**M-Fn**〉ボタンを押すとFEロックを行うことができます。

発光量を手動設定したワイヤレスストロボ撮影

［**発光モード**］が［**マニュアル発光**］のときに設定することができます。なお、設定できる発光量の項目（［**発光量**］、［**Aグループ発光量**］など）は、［**ワイヤレス機能**］の設定内容（下記参照）によって変わります。

［ ］

● 全外付けストロボに対して、設定したマニュアル発光量が一律に設定されます。

［ (A,B,C) ］

● 外付けストロボの A,B,C グループに対して、個別にマニュアル発光量を設定することができます。

［ + ］

● 外付けストロボと内蔵ストロボに対して、個別にマニュアル発光量を設定することができます。

［ (A,B,C) ］

● 外付けストロボのA,B,Cグループと、内蔵ストロボに対して、個別にマニュアル発光量を設定することができます。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXスピードライト（別売）をこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

操作方法については、**EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

- ストロボ機能設定（p.115）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）
- ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしている場合は、常時フル発光します。

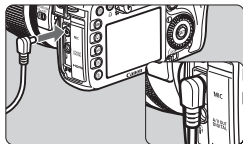
EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを､TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

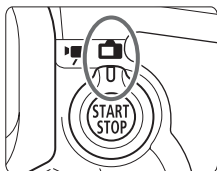
ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行う場合は、［**静音撮影**］を［**しない**］設定にしてください（p.137）。［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

6

ライブビュー撮影

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

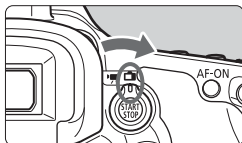
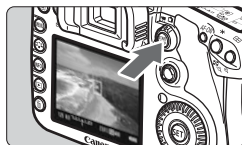
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがありますので、三脚などの使用をおすすめします。

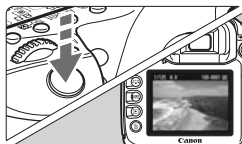
リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

〈📷〉ライブビュー撮影する

1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 映像の視野率は、約100%です。

3 ピントを合わせる

- 撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせておきます（p.138 ～145）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安

［約・枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	230	220
低温（0℃）	220	210

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 連続してライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：約1時間30分です（フル充電のバッテリーパック LP-E6使用時）。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、146、147ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンでも行うことができます。
- ストロボ撮影時はシャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。
- ライブビュー表示中も再生操作〈▶〉を行うことができます。
- カメラを操作しない状態が続くと、メニュー［**オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.44）。なお、設定が［**切**］のときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 付属のAVケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.176、177）。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

・ AFLive :ライブモード
・ AF :顔優先ライブモード
・ AFQuick :クイックモード

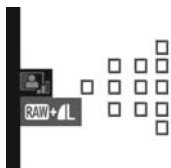
● ヒストグラムは、［**露出Simulation：する**］（p.136）のときに表示させることができます。
● 〈INFO.〉ボタンを押して水準器を表示させることができます（p.228）。なお、AFモードが［**ライブモード**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
● 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、ライブビュー映像を実際の撮影結果に近い明るさで表示しています。
● 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
● ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

撮影機能の設定

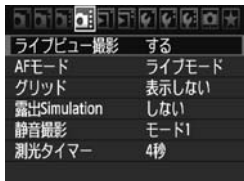
ISO／⊠／AF／DRIVE／WB／⊠設定

ライブビュー撮影状態で〈ISO・⊠〉／〈AF・DRIVE〉／〈⊠・WB〉／〈⊠〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⊠〉または〈⊠〉で撮影機能の設定を行うことができます。なお、〈⊠〉測光モードは設定できません。

Q クイック設定

ライブビュー撮影状態で〈Q〉ボタンを押すと、オートライティングオプティマイザ／記録画質／AFQuick時のAFフレーム選択と測距エリア選択モードの設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定を行うことができる機能が青色で表示されます。

● 〈AFQuick〉のときは、AFフレームも表示されます。

2 機能を選んで設定する

● 〈⊠〉で機能を選びます。

➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。

● 〈⊠〉または〈⊠〉を回して設定を変更します。

● 〈AFQuick〉時の測距エリア選択モードは、AFフレームが選択できる状態で、〈M-Fn〉ボタンを押して選択します。

- 測光モードはライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
- リモコン（別売／p.110）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

◘⁝ メニュー機能の設定

ライブビュー撮影特有の機能設定について説明します。メニューの［◘⁝］タブで表示される各項目の内容は、下記のとおりです。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影でのみ有効です。ファインダー撮影時は無効になります。

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。なお、［**しない**］を設定しても、動画撮影（p.149）は行うことができます。

AFモード

［**ライブモード**］（p.138）、［**☺ライブモード**］（p.139）、［**クイックモード**］（p.143）が選択できます。

グリッド

［**グリッド1** ＃］または［**グリッド2** ＃＃］で格子線を表示することができます。

露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして画像を表示します。［**する**］［**しない**］の内容は、それぞれ次のようになっています。

- **する**

  実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **しない**

  ライブビュー映像が見やすいよう、標準的な明るさで表示されます。

静音撮影 応用

● **モード1**

通常撮影よりも作動音が静かになります。連続撮影を行うこともできます。なお、高速連続撮影は、約7.0コマ/秒になります。

● **モード2**

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻すとカメラが作動しますので、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影にしていても1枚撮影になります。

● **しない**

TS-Eレンズを使用して**上下方向のシフト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ずこの設定にしてください。[**モード1**]、[**モード2**] に設定すると、適正露出にならなかったり、露出ムラになったりします。

シャッターボタンを全押しすると、シャッターが2回切れたような音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。

- [**モード1**]、[**モード2**] に設定していても、ストロボ撮影を行うと、[**しない**] と同じ動きになります。
- 汎用ストロボを使用する場合は、[**しない**] に設定してください。（[**モード1**]、[**モード2**] に設定されていると、ストロボが発光しません。）

測光タイマー 応用

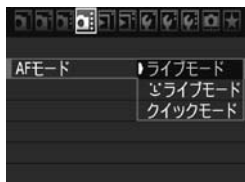
露出値の表示時間を変えることができます。

メニュー [**z: ダストデリートデータ取得**]、[**5: センサークリーニング**]、[**5: カメラ設定初期化**]、[**5: ファームウェア**] を選んだときは、ライブビュー撮影が終了します。

AFでピントを合わせる

AFモードを選ぶ

AFモードには、[ライブモード]、[:) ライブモード]（顔優先／p.139）、[クイックモード]（p.143）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にしたあと、映像を拡大して、手動ピント合わせを行ってください（p.145）。

AFモードを選ぶ

- ［□］タブの［AFモード］で選びます。
- ライブビュー映像表示中に〈AF・DRIVE〉ボタンを押して、表示される設定画面でAFモードを選ぶこともできます。

ライブモード：AF Live

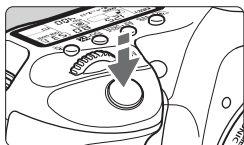
撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックモード」よりもピント合わせに時間がかかります。** また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを動かす

- ピントを合わせたい場所に、〈✣〉で動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈✣〉をまっすぐに押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームが赤色に変わります。

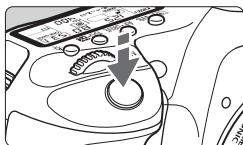
4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.132）。

☺（顔優先）ライブモード：AF☺

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈[ ]〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈◀[ ]▶〉が表示されます。〈✥〉でピントを合わせたい顔に〈◀[ ]▶〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈〔 〕〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームが赤色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.132）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈〔 〕〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈〔 〕〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈✣〉をまっすぐに押すと、ライブモード（p.138）に切り換わり、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。もう一度まっすぐに押すと、☺（顔優先）ライブモードに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈〔 〕〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈□〉でピント合わせが行われます。

ライブモードと〈顔〉（顔優先）ライブモードに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ライブモードで〈拡大〉ボタンを押すと、AF フレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- 〈顔〉ライブモードのときは、〈拡大〉ボタンを押しても拡大表示されません。

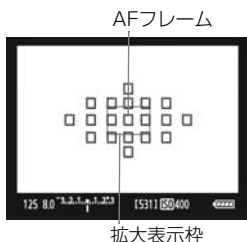
- ライブモード、〈顔〉（顔優先）ライブモードで、画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF補助光は投光されません。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 横縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

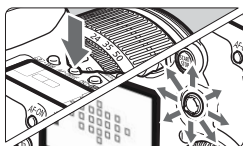
クイックモード：AFQuick

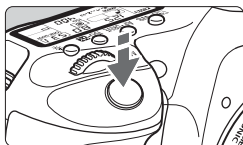
ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.85）でピント合わせを行います。

狙ったところに素早くピントを合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

AFフレーム

拡大表示枠

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠が AF フレームで、大きい枠が拡大表示枠です。

2 AFフレームを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押してクイック設定画面を表示します。
- ➡ 設定を行うことができる機能が青色で表示されます。
- 〈✣〉を操作して、AFフレームが選択された状態にします。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードが切り換わります。
- 〈⚙〉と〈◎〉を回してAFフレームを選びます。

3 ピントを合わせる

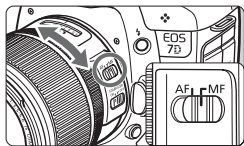
- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピント合わせに使用した AF フレームが赤く表示されます。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.132）。

AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

手動でピントを合わせる 応用

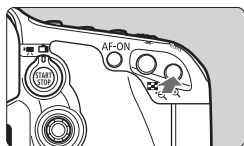
映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

● レンズのフォーカスリングを回して、大まかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

● ピントを合わせたい場所に、〈✣〉で拡大表示枠を移動します。

● 〈✣〉をまっすぐに押すと、画面中央に戻ります。

3 映像を拡大する

● 〈⊕〉ボタンを押します。

➡ 枠内が拡大表示されます。

● 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→5倍 → 10倍 → 通常表示 ┐（繰り返し）

AEロック

拡大表示位置

拡大率

4 手動でピントを合わせる

● 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

● ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.132）。

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所でメニュー［**液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像に色ノイズが発生することがあります。ただし、この色ノイズは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

〈 〉マークについて

- カメラ内部の温度が上昇すると、〈 〉マークが画面に表示されることがあります。そのままライブビュー撮影を継続すると、撮影画像の画質が低下することがありますので、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 〈 〉マークが表示された状態で、ライブビュー撮影を継続し、さらにカメラ内部の温度が上昇すると、ライブビュー撮影が自動的に終了します。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなります。

撮影結果について

- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- 画質低下を防ぐため、長秒時露光を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
- 高温・高ISO感度の条件でライブビュー撮影を行うと、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（横縞、輝点など）が目立つことがあります。
- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

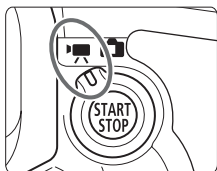
カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.205）。
- メニュー［**オートライティングオプティマイザ**］（p.75）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正を行っても明るく撮影されることがあります。

レンズとストロボについて

- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
- 内蔵／外部ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にモデリング発光、テスト発光（ワイヤレスストロボ撮影時を除く）はできません。

7

動画を撮影する

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈'🎥〉にすると、動画撮影ができるようになります。動画タイプはMOV形式です。

動画を撮影するときは、大容量で、実際の書き込み/読み取り速度が8MB/秒以上のカードを使用してください

動画撮影時に書き込みが遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

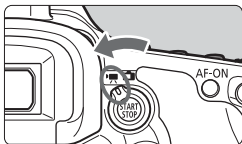
Full HD 1080について

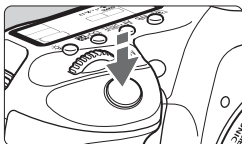
Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

'🎥 動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします(p.176、177)。

自動露出制御で撮影する

撮影モードが〈**M**〉以外のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。なお、自動露出制御の内容は、どの撮影モードでも同じです。

1 ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを〈'🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 ピントを合わせる

● 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせておきます(p.138〜145)。

● シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。

3 動画を撮影する

● 〈START STOP〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈START STOP〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

● 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。

● **動画撮影全般に関する注意事項は、158、159ページにまとめて記載しています。**

● **必要に応じて146、147ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンでも行うことができます。
- 動画は、1カット1ファイルとして記録されます。
- 動画撮影時は、画面の上下または左右に半透過部分が表示されます。その部分を除いた内側の範囲が動画として記録されます。なお、半透過部分の表示は、[**動画記録サイズ**]（p.156）の設定で変わります。
- 〈✱〉ボタンを押すとAEロックを行うことができます（p.106）。
- 〈**M**〉以外の撮影モードでは、ISO感度（100～6400、感度拡張時12800）とシャッター速度、絞り数値が自動設定されます。
- シャッターボタン半押しで画面左下に表示されるシャッター速度と絞り数値（p.152）は、静止画撮影用の露出値です（〈**M**〉除く）。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.16）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.16）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。
- 音量（録音レベル）は自動調整されます。
- リモートコントローラー RC-1/RC-5（別売／p.110）を使用すると、ドライブモードが〈 〉と〈 $_2$〉のときに、動画撮影の開始／停止を行うことができます。RC-1は撮影タイミングスイッチを〈**2**〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6で使用できる時間は、常温（＋23℃）：合計約1時間20分、低温（0℃）：合計約1時間10分です。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

フレームレート
動画撮影可能時間／撮影経過時間
動画撮影中
ホワイトバランス
ピクチャースタイル
オートライティングオプティマイザ
記録画質
動画記録サイズ
AEロック
拡大表示枠
AFフレーム（クイックモード）
露出シミュレーション
電池チェック
シャッター速度
絞り数値
ドライブモード
露出補正表示
ISO感度
撮影可能枚数
AFモード
・AFLive :ライブモード
・AF :顔優先ライブモード
・AFQuick :クイックモード

● 〈INFO.〉ボタンを押して水準器を表示させることができます（p.228）。なお、動画撮影を開始すると水準器は消えます。再度水準器を表示させるときは、動画撮影を終了して〈INFO.〉ボタンを押します。AFモードが［**ライブモード**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.177）したときは、水準器は表示されません。
● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。
●「動画撮影可能時間」は撮影が始まると、撮影の経過時間に変わります。
● 〈 DISP 〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像を表示しています。

マニュアル露出で撮影する

撮影モードが〈M〉（p.102）のときは、下記のシャッター速度と絞り数値、ISO感度を手動設定して、動画撮影を行うことができます。なお、動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

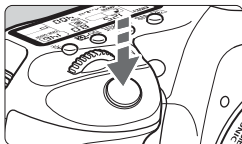
シャッター速度：〈〉を回して設定します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈〉により異なります。
・50、60：1/4000～1/60秒
・24、25、30：1/4000～1/30秒

絞り数値：サブ電子ダイヤルスイッチを〈〉側にして、〈〉を回して設定します。

ISO感度：〈ISO・〉ボタンを押して、〈〉を回して設定します。
・手動設定時：100～6400
・自動設定時：100～6400

- AEロックと露出補正はできません。
- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯などの光源下で動画撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。

- ISO感度自動設定にすると、「絞り優先AE（絞り固定・適正露出）」的な動画撮影を行うことができます。
- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定したときは、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 動画撮影中に、絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 撮影した動画を「撮影情報表示」（p.163）で再生したときに、撮影モード、シャッター速度、絞り数値は表示されません。ただし、画像情報（Exif情報）には、撮影開始時点の設定値が記録されます。

静止画を撮影する

シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中を含め、いつでも静止画を撮影することができます。

動画撮影中の静止画撮影について

- 画面全体（半透明部分を含む）が静止画として記録されます。
- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約 1 秒間記録されます。
- 静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると自動的に動画撮影が再開します。
- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。そのほかの機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	メニュー［**記録画質**］設定のとおり
露出値	シャッター速度、絞り数値自動設定（撮影モードの〈**M**〉は手動設定） シャッターボタン半押しで表示
AEB	解除
ドライブモード	セルフタイマー以外可能
ストロボ	発光禁止

- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、実際の書き込み速度が 8MB/ 秒よりもさらに高速な、Ultra DMA（UDMA）対応カードなどの使用をおすすめします。
- 撮影モードが〈**M**〉のときは、動画撮影用に設定したシャッター速度、絞り数値、ISO感度の設定でそのまま撮影されます。

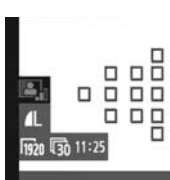
撮影機能の設定

AF／DRIVE／WB／ピクチャースタイル／ISO設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈AF･DRIVE〉／〈測光･WB〉／〈ピクチャースタイル〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉で撮影機能の設定を行うことができます。なお、〈測光〉測光モードは設定できません。

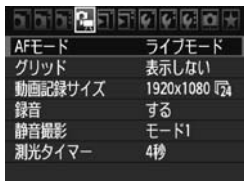
撮影モードが〈M〉のときは、〈ISO･調光補正〉ボタンを押して、〈メイン電子ダイヤル〉を回してISO感度を設定することができます。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、オートライティングオプティマイザ／記録画質（静止画）／動画記録サイズ／AFQuick時のAFフレーム選択と測距エリア選択モードの設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定を行うことができる機能が青色で表示されます。
- 〈AFQuick〉のときは、AFフレームも表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈マルチコントローラー〉で機能を選びます。

➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈サブ電子ダイヤル〉または〈メイン電子ダイヤル〉を回して設定を変更します。
- 〈AFQuick〉時の測距エリア選択モードは、AFフレームが選択できる状態で、〈M-Fn〉ボタンを押して選択します。

- 露出補正を行うことができます（M除く）。
- 動画撮影時に設定した「ピクチャースタイル、ホワイトバランス、記録画質、露出補正（M除く）」は、静止画撮影時の設定にも反映されます。

📷🎥 メニュー機能の設定

動画撮影特有の機能設定について説明します。ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、メニューに［📷🎥］タブが表示されます。各項目の内容は下記のとおりです。

AFモード

138～144ページで説明しているAFモードと同じです。［ライブモード］、［顔ライブモード］、［クイックモード］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

グリッド

［グリッド1 ♯］または［グリッド2 ♯♯］で格子線を表示することができます。

動画記録サイズの設定

［1920×1080］：Full HD（フルハイビジョン）画質で記録します。
［1280×720］ ：HD（ハイビジョン）画質で記録します。
［640×480］ ：標準画質で記録します。画面の横縦比率は4:3です。

**（フレームレート）は、1秒間に何コマ記録するかを示したもので、メニュー［🔧 ビデオ出力方式］（NTSC：北米、日本、韓国、メキシコなど。PAL：ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）の設定によって変わります。なお、［24］は映画関連で使用します。

* 実際のフレームレートは、30：29.97、25：25.00、24：23.976、60：59.94、50：50.00です。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録サイズ		総記録時間		ファイルサイズ
		4GBカード	16GBカード	
［1920×1080］	30	12分	49分	330MB/分
	25			
	24			
［1280×720］	60	12分	49分	330MB/分
	50			
［640×480］	60	24分	1時間39分	165MB/分
	50			

- 動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと動画撮影を再開します（新規ファイルとして記録されます）。
- 画面の上下または左右の、半透明で表示されている部分は記録されません。
- 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserを使用すると、動画から静止画を抜き出すことができます。静止画の画質は［1920×1080］：約200万画素、［1280×720］：約100万画素、［640×480］：約30万画素です。

録音

録音［**する**］を設定すると、内蔵マイクで音声がモノラル録音されます。外部マイク入力端子（p.16）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。音量（録音レベル）は自動調整されます。

静音撮影 応用

静止画撮影用の機能です（p.137）。

測光タイマー 応用

〈✱〉ボタンで行うAEロックの保持時間を変えることができます。

動画撮影に関するおことわり

記録と画質

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉の位置にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外からの出力を入力しないでください。
- 動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあるため、おすすめできません。なお、AFモードを［**クイックモード**］に設定していても、動画撮影中はライブモードに切り換わります。
- カードの残り容量がわずかで、動画撮影ができないときは、動画撮影可能時間（p.152）が赤く表示されます。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードに書き込みできていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。

  インジケーター

  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
  なお、動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画撮影が停止することがあります。静止画の記録画質を低くすると改善される場合があります。
- 動画撮影設定時は、設定が無効になるカスタム機能があります（p.205）。

動画撮影に関するおことわり

カメラ内部の温度上昇と、画質の低下

- カメラ内部の温度が上昇すると、〈〉マークが画面に表示されることがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 〈〉マークが表示された状態で撮影した静止画は、画質が低下することがあります。なお、〈〉マークが表示されても動画の画質には影響ありません。
- 〈〉マークが表示された状態で、動画撮影を継続し、さらにカメラ内部の温度が上昇すると、動画撮影が自動的に終了します。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

再生とテレビ接続

- 動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。
- カメラとテレビを HDMI ケーブルで接続（p.177）したときは、動画撮影中に〈INFO.〉ボタンを押しても撮影情報が変わりません。
- カメラとテレビを接続（p.176、177）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

8

画像の再生

撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

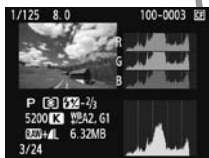
▶ 画像を再生する

1枚表示

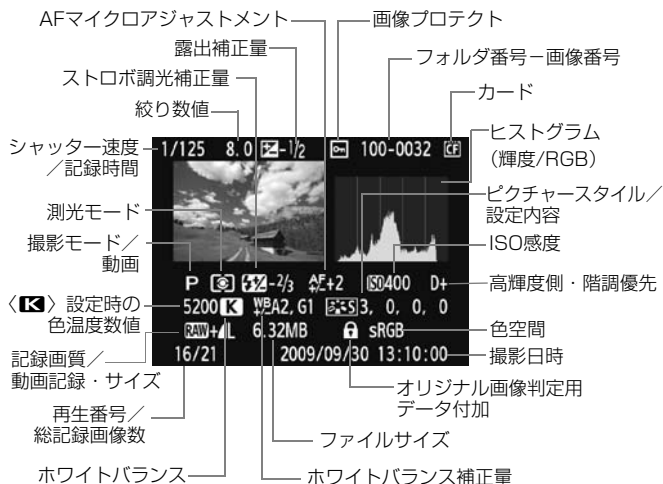
1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

INFO. 撮影情報の内容

* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、JPEG画像のファイルサイズが表示されます。
* 動画撮影では、動画アイコン〈'♬〉、動画タイプ〈[MOV]〉、記録サイズ〈[1920]／[1280]／[640]〉が表示されます。なお、シャッター速度など一部の撮影情報は表示されません。

● ハイライト警告表示ついて

メニュー［▶ ハイライト警告表示］を［する］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● AFフレーム表示ついて

メニュー［▶ AFフレーム表示］を［する］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［▶ ヒストグラム］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

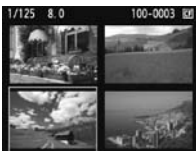
⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。

1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊞·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊞·Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、9枚→4枚→1枚表示になります。

➡

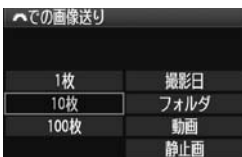
➡

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに、〈〉を回すと画像を飛ばして表示することができます。

1 ジャンプ方法を選ぶ

- メニュー［での画像送り］で［1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画］の中から、希望するジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。

ジャンプ方法

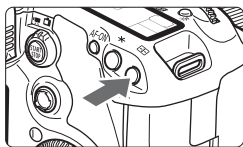
再生位置

2 画像送りをする

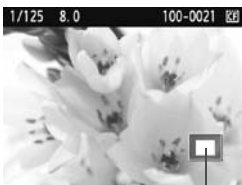
- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。
- ➡ 画面右下にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。

- ［撮影日］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。〈〉を回すと撮影日が表示されます。
- ［フォルダ］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［動画］と［静止画］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

⊕／⊖ 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

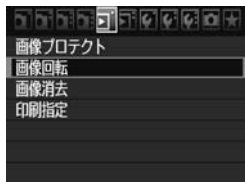
1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈⊞·⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。

2 表示位置を移動する

- 〈✥〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 〈◎〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。
- 動画は拡大表示できません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
- インデックス表示にして選ぶこともできます。

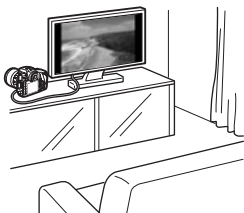
3 画像を回転する

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー［**縦位置画像回転表示**］を［**する**］（p.182）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー［**縦位置画像回転表示**］を［**する**］に設定します。
- 動画は回転できません。

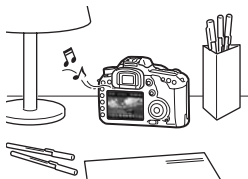
撮った動画の楽しみ方

　撮影した動画は、おもに次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する （p.176、177）

　付属のAVケーブル、または別売のHDMIケーブルHTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

　Full HD（フルハイビジョン：1920×1080）、またはHD（ハイビジョン：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルで、ハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しむことができます。

- 動画が入ったカードは、MOV形式の動画ファイル再生に対応した機器以外では、再生できません。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する （p.171～175）

　カメラの液晶モニターで動画を再生することができ、シーンの前後部分をカット（簡易編集）することもできます。また、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することもできます。

パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する

（→ZoomBrowser EX/ImageBrowser使用説明書PDF参照）

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserで再生・編集することができます。

また、動画から1フレームを取り出して、静止画として保存することもできます。

- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ZoomBrowser EX/ImageBrowserの使用説明書（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

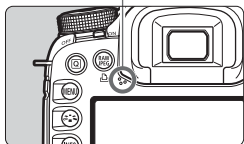
2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈動画 SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。

4 動画を再生する

- 〈◎〉を回して［▶］（再生）を選び、〈SET〉を押します。
➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止されます。
- 〈ダイヤル〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈◎〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
編集	編集画面を表示します（p.173）。
	再生位置
mm’ ss”	再生時間
音量	〈◎〉を回すと、内蔵スピーカー（p.17）の音量を調整することができます。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6で連続再生できる時間は、常温（+23℃）：約3時間です。
- 1枚表示のときに〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影情報表示を切り換えることができます（p.228）。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止画が表示されます。
- カメラをテレビに接続して（p.176、177）動画を再生するときは、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈◎〉を回しても音量は変わりません）。

✂ 動画の前後をカットする

撮影した動画の前後を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

2 削除する範囲を指定する

● ［✂◫］（前部を削除）か、［◫✂］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
● 〈✣〉の左右押し（早送り）、または〈◎〉を回して（フレーム送り）削除する範囲を指定し、〈SET〉を押します。
● 画面上部の青色で表示された範囲が残ります。

3 編集内容を確認する

● ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、画面上部の青色で表示された範囲が再生されます。
● 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
● 編集を中止するときは、［↩］を選んで〈SET〉を押します。

4 保存する

● ［保存］を選んで〈SET〉を押します。
➡ 保存画面が表示されます。
● 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。

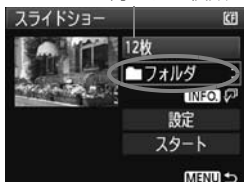
● カードの空き容量が少ないときは、［**上書き保存**］しか選べません。
● 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserを使うと、さまざまな動画編集を行うことができます。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶:］タブの［**スライドショー**］を選び、〈SET〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

［全画像/動画/静止画］

- 〈◎〉を回して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

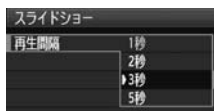
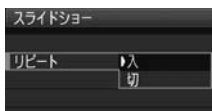
［フォルダ/日付］

- 〈◎〉を回して［**フォルダ/日付**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回してフォルダ、または日付を選び、〈SET〉を押します。

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。

3 再生間隔とリピートを設定する

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と、［**リピート**］（繰り返し再生）の設定を行い、〈MENU〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］

［**リピート**］

4 スライドショーを開始する

- 〈◎〉を回して［**スタート**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が数秒間表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

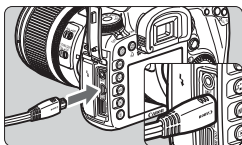
- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、再開します。
- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます。
- 動画再生中に〈ダイヤル〉を回すと、音量を調節することができます。
- 一時停止中に〈◎〉または〈ダイヤル〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、176、177ページを参照してください。

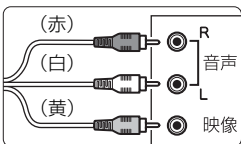
テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ることができます。ケーブルの接続／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

* 動画の音量はテレビで調整します。
* 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

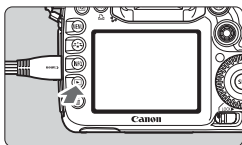
HD（ハイビジョン）非対応のテレビで見る

1 付属のAVケーブルをカメラに接続する

- カメラの〈**A/V OUT**／**DIGITAL**〉端子に、AVケーブルを接続します。
- プラグの〈**Canon**〉ロゴが、カメラの背面に向くようにして差し込みます。

（赤） R
（白） 音声
（黄） L 映像

2 テレビにAVケーブルを接続する

- AV ケーブルを、テレビの映像入力端子と、音声入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

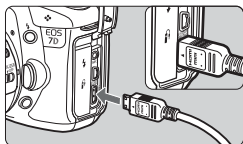
4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

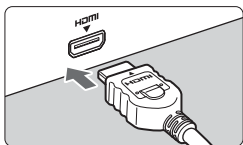
➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 動画の再生方法は、171 ページを参照してください。

> ● テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［**ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
> ● 付属のAVケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。

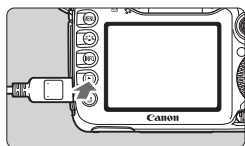
HD（ハイビジョン）対応のテレビで見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、HDMIケーブルを接続します。
- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉マークが、カメラの前面に向くようにして差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

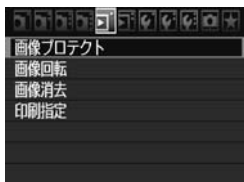
4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、171 ページを参照してください。

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。その場合は、付属のAVケーブルで接続してください。
- 〈**A/V OUT/DIGITAL**〉端子と〈**HDMI OUT**〉端子は、同時に使用できません。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 画像を選んでプロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈On〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈On〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了し、メニューに戻ります。

カードを初期化すると（p.43）、**プロテクトされた画像も消去されます。**

- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.180）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

〈🗑〉消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.178）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

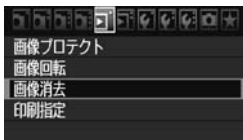
2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

● 〈◎〉を回して［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

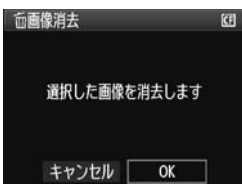
消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶］タブの［**画像消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［選択して消去］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**選択して消去**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈▪·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

- 〈削除〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。メニュー［▶ **画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.43）。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターは、見やすい明るさに自動調整されます。なお、自動調整時の明るさ（明るめ/暗め）を設定したり、手動で明るさを調整することもできます。

1 [液晶の明るさ] を選ぶ

- [🔧] タブの [**液晶の明るさ**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [自動] または [手動] を選ぶ

- 〈ダイヤル〉を回して選びます。

3 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈SET〉を押します。
- [**自動**] は3段階、[**手動**] は7段階に調整することができます。

自動調整

手動調整

- [**自動**] のときは、液晶モニターの右側にある丸い部分（外光センサーの窓）を指などでふさがないようにしてください。
- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.164）で確認することをおすすめします。

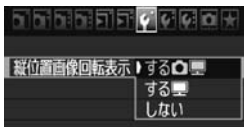
MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

● ［🔧］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。

2 回転表示を設定する

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

● **する📷🖥**

カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

● **する🖥**

パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

● **しない**

自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

● 撮影直後に表示される画像は自動回転表示されません。
● カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
● パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く､セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［ ］タブの［センサークリーニング］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［今すぐクリーニング ］を選ぶ

- 〈 〉を回して［今すぐクリーニング ］を選び、〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを垂直に置いて清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［今すぐクリーニング ］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［自動クリーニング ］を選び、［しない］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

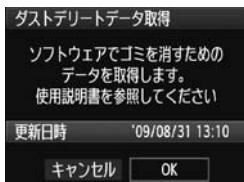
通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

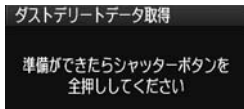
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［tab］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

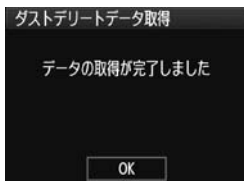
- 〈dial〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 〜 30cm の距離で、(模様などがない)真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

ダストデリートデータ取得

データの取得が完了しました

OK

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  [OK] を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得(更新)を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書(CD-ROM)を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

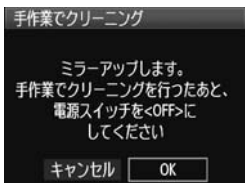
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

2 [手作業でクリーニング] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [手作業でクリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

3 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

- 電源には、ACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池室ふたを開ける
  ・カードスロットカバーを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

10

画像の印刷

● **印刷**（p.190）

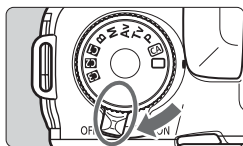
　カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.199）

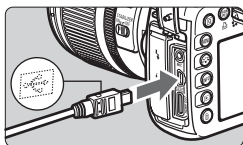
　カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

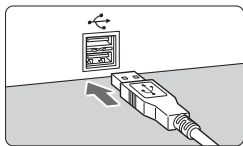
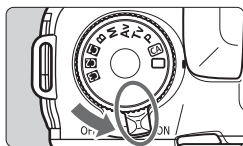
印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈•⬸〉マークが、カメラの前面に向くようにして、〈**A/V OUT**/**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  1. 〈▶〉ボタンを押して画像を再生する
  2. 〈SET〉を押す
  3. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ

  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます（p.198）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約4時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

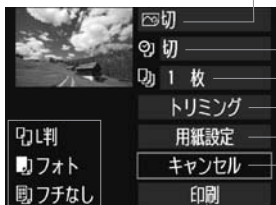
プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

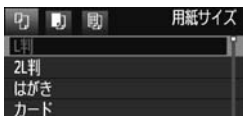
印刷設定画面

印刷効果を設定します（p.194）
日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
何枚印刷するかを設定します
印刷範囲を設定します（p.197）
用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
手順1の画面に戻ります
印刷を開始します
設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

* **プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

● プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
➡ 用紙タイプの設定画面になります。

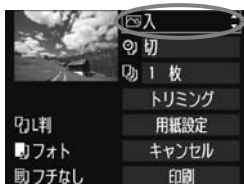
用紙タイプの設定

● プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
● キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。
➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

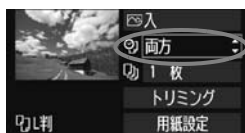
● 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。
➡ 印刷設定画面に戻ります。

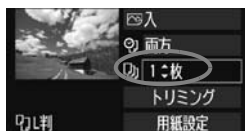
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	DPOF（p.199）で印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置**］では、撮影情報*を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 図の項目を選び〈SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉の横に〈⊟〉が表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.196）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。196ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

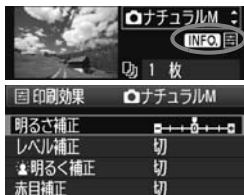
- 必要に応じて設定します。
- 〈⊙〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⧉〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、〈⎙〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、1枚ずつ印刷されます（印刷枚数は指定できません）。また、トリミングの設定（p.197）は反映されません。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定した印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.197）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。
- メニュー［**Ÿ: カメラ設定初期化**］（p.45）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

194ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈〉が表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈〉を回すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈〉で行います。BはブルーAはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈⊕〉〈▪▪·⊖〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈✣〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈◎〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈⊿〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。
- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

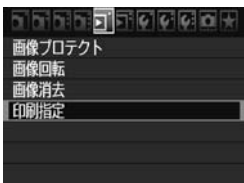
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

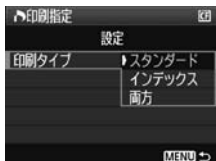
➡ ［⊡˙］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

● ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

● ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。

● 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］

［**日付**］

［**画像番号**］

印刷タイプ	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入 切	［**入**］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
画像番号	入 切	［**入**］にすると、画像番号を付けて印刷します。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**■指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈 〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈 〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

指定枚数　総指定枚数

[スタンダード][両方]

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈 〉を回すと、その画像の枚数指定を最大99枚にすることができます。

[インデックス]

〈SET〉を押すと、表示されている画像がインデックス印刷用の画像として指定され、画面左上に〈✓〉が表示されます。

● 指定

指定を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

指定を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 指定／全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 190ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [⊡˙] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する (p.192)

- 印刷効果 (p.194) は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

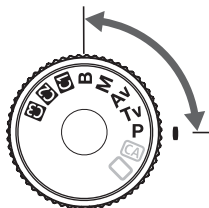
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  ・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  ・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、198ページを参照してください。

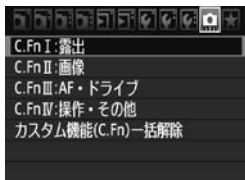
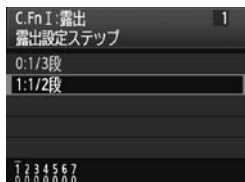
11

カメラをカスタマイズする

カスタム機能でカメラの機能を細かく変更することができます。また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**の撮影モードで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 ［📷］を選ぶ

- 〈ダイヤル〉を回して［📷］を選びます。

2 グループを選ぶ

- 〈◎〉を回してC.Fn I～IVのいずれかを選び、〈SET〉を押します。

3 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を変更する

- 〈◎〉を回して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定解除

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

MENU カスタム機能一覧 応用

C.Fn I：露出

			LV撮影	動画撮影
1	露出設定ステップ	p.206	○	
2	ISO感度設定ステップ		○	○（〈M〉）
3	ISO感度拡張		○	
4	ブラケティング自動解除		○	
5	ブラケティング順序	p.207	○	
6	セイフティシフト		○	
7	Avモード時のストロボ同調速度		○	

C.Fn II：画像

			LV撮影	動画撮影
1	長秒時露光のノイズ低減	p.208	○	○（静止画）
2	高感度撮影時のノイズ低減		○	○（静止画）
3	高輝度側・階調優先	p.209	○	

C.Fn III：AF・ドライブ

			LV撮影	動画撮影
1	AIサーボ時の被写体追従敏感度	p.209		
2	AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作	p.210		
3	AIサーボ時の測距点選択特性			
4	AF測距不能時のレンズ動作	p.211	○（AFQuick）	
5	AFマイクロアジャストメント		○（AFQuick）	
6	測距エリア選択モードの限定	p.212	○（AFQuick）	
7	AFフレーム任意選択時の循環		○（AFQuick）	
8	ファインダー情報の照明	p.213		
9	全AFフレーム位置表示			
10	AIサーボ/MF時のフォーカス表示			
11	AF補助光の投光	p.214	○（AFQuick）	
12	縦位置/横位置のAFフレーム設定		○（AFQuick）	
13	ミラーアップ撮影	p.215		

C.Fn IV：操作・その他

			LV撮影	動画撮影
1	操作ボタンカスタマイズ	p.215	設定により異なる	
2	Tv/Av値設定時のダイヤル回転		○	○（〈M〉）
3	オリジナル画像判定用データの付加	p.216	○	○（静止画）
4	アスペクト比情報の付加		○	○（静止画）

□ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時には機能しません（設定が無効になります）。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0：1/3段

1：1段

C.Fn I -3　ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、「H」（ISO12800相当）が選択できるようになります。

C.Fn I -4　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチ〈OFF〉、カメラ設定初期化を行うと、AEB、WB-BKTの設定が解除されます。また、ストロボ充電（完了）でAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチ〈OFF〉を行っても、AEB、WB-BKTの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了でAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

C.Fn I -5　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→－→＋

1：－→0→＋

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
－ ：マイナス補正	－：ブルー寄りに補正	－：マゼンタ寄りに補正
＋ ：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：する（Tv/Av値）

シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが急に変化して、適切な自動露出値が得られない場合、設定値をカメラが自動的に変更して、適正露出で撮影することができます。

C.Fn I -7　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

通常は明るさに応じて1/250～30秒が自動設定されます。ハイスピードシンクロも有効です。

1：1/250-1/60秒自動

絞り優先AE（**Av**）モードのストロボ撮影のときに、暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により適正露出になりますが、被写体の背景は暗くなります。

2：1/250秒固定

シャッター速度が1/250秒に固定されるため、1よりも被写体ブレや手ブレを防止することができます。ただし、暗い場所では1よりも被写体の背景が暗くなります。

C.Fn II：画像

C.Fn II -1　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2：する

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 1，2設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600以上の高感度で撮影すると、0、1設定時よりも2設定時の方が画像のザラつきが多くなる場合があります。
- 2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

C.Fn II -2　高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0：標準

1：弱め

2：強め

3：しない

- 2設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。
- RAW と RAW+JPEG 画像をカメラで再生、またはダイレクトプリントすると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行ってください。

C.Fn II -3　高輝度側・階調優先

0： しない

1： する

　高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

- 1設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.75）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 1設定時は、通常撮影時より、低輝度部のノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。
また、表示パネルとファインダー内には、〈**D+**〉が表示されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn III -1　AIサーボ時の被写体追従敏感度

　AIサーボAF時の測距中に、AFフレームを横切る被写体（障害物）に対するAF敏感度を、5段階で設定することができます。

　［**遅い**］の方向に設定すると、障害物の影響が少なくなります。狙っている被写体にピントを合わせ続けたいときに有効です。

　［**速い**］の方向に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。ランダムな距離にある複数の被写体をつぎつぎに撮影するときに有効です。

C.Fn III -2　AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作

AIサーボAF＋連続撮影時における、サーボの作動特性とレリーズタイミングの関係を変更することができます。

0：ピント優先/被写体追従優先

1枚目は、被写体に対するピント合わせが優先されます。連続撮影中（2枚目以降）は、被写体へのピント追従を優先した撮影になります。

1：ピント優先/撮影速度優先

1枚目は、被写体に対するピント合わせが優先されます。連続撮影中は、（被写体へのピント追従よりも）連続撮影速度を優先した撮影になります。

2：レリーズ優先/撮影速度最優先

1枚目は、（被写体に対するピント合わせよりも）レリーズが優先されます。連続撮影中は1よりもさらに連続撮影速度を優先した撮影になります。

3：レリーズ優先/被写体追従優先

1枚目は、（被写体に対するピント合わせよりも）レリーズが優先されます。連続撮影中（2枚目以降）は、被写体へのピント追従を優先した撮影になります。

C.Fn III -3　AIサーボ時の測距点選択特性

AIサーボAF時の被写体捕捉中、測距中心に、より撮影距離の近い（手前に）被写体が入ったときに、その被写体にピントを合わせるか、障害物として無視するかを設定することができます。

* 測距中心＝19点自動選択AFと領域拡大AFは、測距開始AFフレーム。ゾーンAFは、測距中のAFフレーム。

0：測距中心優先

測距点が測距中心へ乗り移り、手前に入った被写体にピント合わせが行われます。撮影したい被写体が、一番手前にあるシーンで有効です。

1：測距連続性優先

手前に入った被写体を障害物として無視します。測距中心にこだわらず、直前の測距結果から被写体移動の連続性を判断して、測距点の乗り移りが行われます。撮影したい被写体の手前を、柵や電柱などがさえぎるようなシーンで有効です。

C.Fn III -4　AF測距不能時のレンズ動作

AFを行ってピントが合わないときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：駆動しない

再測距を行って大ボケ状態になることを防止することができます。特に大ボケ状態になりやすい、超望遠レンズ使用時に有効です。

C.Fn III -5　AFマイクロアジャストメント

通常はこの機能で調整を行う必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

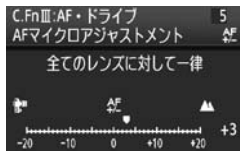
AFによるピント合焦位置を微調整することができます。調整範囲は、±20ステップ（－：前方向／＋：後方向）です。

1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放 FNo. によって異なります。**「調整→撮影（◢L）→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。**

1または2を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、登録画面になります。
〈🗑〉ボタンを押すと、登録した内容を一括解除することができます。

0：しない

1：全レンズ一律調整

使用するレンズにかかわらず、常に設定量分シフトして合焦します。

2：レンズごとに調整

レンズの種類（銘柄）ごとに調整を行い、カメラに20本まで登録することができます。登録されたレンズを使用すると、設定量分シフトして合焦します。

すでに20本登録されているときは、上書き消去するレンズを選びます。

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 2設定時に、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- カスタム機能の一括解除（p.204）を行っても、登録した調整内容は保持されますが、設定は［0：しない］になります。
- ライブビュー撮影時のライブモード、顔ライブモードの AF 調整はできません。

C.Fn III -6　測距エリア選択モードの限定

［登録］を選んで〈SET〉を押すと、モードの選択ができるようになります。

〈◎〉を回して使用するモードを選び、〈SET〉を押して〈✓〉マークを付けます。
選択が終わったら〈◎〉を回して［適用］を選び、〈SET〉を押します。

［する］を選んで〈SET〉を押すと、〈✓〉マークを付けたモードだけが選択できるようになります。

［しない］を選んで〈SET〉を押すと、初期設定の19点自動選択AFとゾーンAF（ゾーン任意選択）、1点AF（任意選択）が選択できるようになります。

C.Fn III -7　AFフレーム任意選択時の循環

AFフレーム任意選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。19点自動選択AFとゾーンAFを除く測距エリア選択モードで有効です。

0：しない（端で突き当たり）

一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。

1：する

一番端のAFフレームで止まらずに、反対側のAFフレームを選択します。

C.Fn III -8　ファインダー情報の照明

ファインダー内のAFフレームやグリッドなどの照明（赤色）を設定することができます。

0：自動

暗い場所では自動的に照明します。

1：する

周りの明るさに関係なく照明します。

2：しない

C.Fn III -9　全AFフレーム位置表示

0：しない

AFフレーム選択時は全AFフレームを表示して、撮影時は使用するAFフレームだけを表示します。

1：する

撮影時にも、AFフレーム選択時と同じように、全AFフレームを表示します。

C.Fn III -10　AIサーボ/MF時のフォーカス表示

0：する

AIサーボAFでは、ゾーンAFと19点自動選択AF時に、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動します。

マニュアルフォーカスでは、ピントが合うと、AFでピントが合ったときと同じ合焦表示を行います。

1：しない

マニュアルフォーカスでピントが合っても合焦表示を行いません。

AIサーボAFでは、領域拡大AFとゾーンAF、19点自動選択AF時の、AFフレーム〈□〉の被写体追従表示を行いません。

C.Fn III -11 AF補助光の投光

内蔵ストロボによるAF補助光、EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

AF補助光は投光されません。

2：外部ストロボの補助光のみ投光

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光が投光されます。

3：赤外光方式の補助光のみ投光

EOS用外部ストロボのAF補助光の中で、赤外光方式のAF補助光だけを投光します。内蔵ストロボと同じ、ストロボ発光方式のAF補助光を投光したくないときに設定します。

EOS用外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、C.Fn III -11-0,2,3に設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn III -12 縦位置/横位置のAFフレーム設定

測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（ゾーンAF時は選択したゾーン）を、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます。

0：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（ゾーンAF時は選択したゾーン）になります。

1：別々に設定

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（ゾーンAF時は選択したゾーン）を設定することができます。カメラがどの姿勢のときでも右寄りのAFフレームを使いたいときなどに有効です。

設定方法

①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（ゾーンAF時はゾーン）を任意選択すると設定されます。

設定すると、カメラの姿勢に応じて、記憶した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（ゾーンAF時は選択したゾーン）に切り換わります。

C.Fn III -13　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

　望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、109ページを参照してください。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn IV -1　操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。また、メイン／サブ電子ダイヤルと〈⁜〉の機能を変更することができます。

詳しい説明は、217ページを参照してください。

C.Fn IV -2　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

　シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

　マニュアル露出時は〈メイン電子ダイヤル〉〈サブ電子ダイヤル〉、それ以外の撮影モードでは〈メイン電子ダイヤル〉による設定方向が反転します。マニュアル露出時と露出補正時の〈サブ電子ダイヤル〉による設定方向が同じになります。

C.Fn IV -3　オリジナル画像判定用データの付加

0：しない

1：する

　撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.163）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

　オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3の画像暗号化・復号機能には、対応していません。

C.Fn IV -4　アスペクト比情報の付加

　ライブビュー撮影時に、設定した比率に応じた縦線が画面に表示されます。6×6cm、6×4.5cm、4×5inchなど、フィルム式の中判/大判カメラと同じ構図で撮影できるようになります。

　撮影を行うと、画像にアスペクト比情報が自動的に付加されます（トリミングされた画像が、メモリーカードに記録されるわけではありません）。

　画像をパソコンに取り込み、付属のソフトウェア（Digital Photo Professional）を使用すると、撮影時のアスペクト比で画像が表示されます。

0：しない

1：比率6：6

2：比率3：4

3：比率4：5（六切）

4：比率6：7

5：比率5：6（四切）

6：比率5：7

- ファインダー撮影時も、情報が付加されます。
- 情報が付加された画像をカメラで再生すると、比率に応じた縦線が表示されます。

C.Fn IV -1：操作ボタンカスタマイズ

1 ［C.Fn IV -1：操作ボタンカスタマイズ］を選ぶ

- 各操作部材に割り当てられている機能の一覧が表示されます（p.218）。
- 〈SET〉を押すと操作部材の選択画面が表示されます。

2 操作部材を選ぶ

- 〈◎〉を回して操作部材を選び、〈SET〉を押します。

➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。

3 機能を割り当てる

- 〈◎〉を回して機能を選び、〈SET〉を押します。
- 画面左下に［INFO.］マークが表示される機能は、〈INFO.〉ボタンを押すと、さらに関連項目の設定を行うことができます（p.219、220）。表示される画面で項目を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を終了する

- 〈SET〉を押して設定が終了すると、手順2の画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

機能			参照頁		AF-ON	★		LENS*	M-Fn	SET			
AF	AF	測光・AF開始	219	○	○*1	○*1		○					
	AF-OFF	AF停止			○	○	○	○					
	AF⇔	登録AF機能に切り換え					○*2	○*2					
	ONE SHOT⇔AI SERVO	ワンショット⇔AIサーボ	220				○	○					
		AFフレームダイレクト選択										○	○*3
露出		測光開始	220	○									
	★	AEロック		○	○	○	○	○	○				
	FEL	FEロック			○	○			○				
	Tv	Mモード時、シャッター速度変更									○	○	
	Av	Mモード時、絞り数値変更									○	○	
画像		記録画質選択	220							○			
	RAW JPEG	ワンタッチRAW+JPEG							○				
		ピクチャースタイル選択	221							○			
		画像の再生								○			
操作		絞り込み	221				○						
		手ブレ補正機能作動					○	○					
		ファインダー内水準器							○				
	MENU	メニュー表示								○			
	Q	クイック設定画面								○			
	OFF	無効			○	○				○			○

*AFストップボタンは、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されています。

● 〈AF〉測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

*1：〈AF-ON〉ボタンと〈★〉ボタンでは、[測光・AF開始] 機能を割り当てるときに、登録AFフレームへの切り換え機能を付加すると、登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。この機能を有効にするためには、217ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押し、[AF開始位置] の選択画面で [登録AFフレーム] を選択します。
なお、C.Fn III -12 [縦位置/横位置のAFフレーム設定]（p.214）を [別々に設定] にしているときは、縦位置撮影（グリップ上/下）と横位置撮影に使用するAFフレームを別々に登録することができます。

AFフレームの登録方法と使用方法

①測距エリア選択モードを1点AF/1点スポットAF/領域拡大AFのいずれかにします（ゾーンAFと19点自動選択AFは登録できません）。
②AFフレームを任意選択します（p.88）。
③〈⊞〉ボタンを押しながら〈☼〉ボタンを押すと、“ピッ”という音がしてAFフレームが登録されます。登録したAFフレームは、小さい〈▫〉で表示されます。
C.Fn III -12-1 設定時は、カメラの縦位置、横位置それぞれの姿勢でAFフレームが登録できます。
④この機能を割り当てた〈AF-ON〉ボタン、または〈★〉ボタンを押すと、そのとき設定されている測距エリア選択モード（1点AF/スポット1点AF/領域拡大AF/ゾーンAF）の状態で、登録したAFフレームに切り換わります。ゾーンAFのときは、登録したAFフレームが含まれるゾーンに切り換わります。なお、中央のゾーンに切り換えたいときは、中央とその左右にあるAFフレーム3点のいずれかを登録します。
登録したAFフレームの全解除は、〈⊞〉ボタンと〈ISO・☒〉ボタンの同時押し、またはメニュー [♀: カメラ設定初期化] で行うことができます。

● 〈AF-OFF〉AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にピントを固定したいときなどに有効です。

● 〈AF⇔〉登録AF機能に切り換え

「測距エリア選択モード（p.87）」と「AIサーボ時の被写体追従敏感度（p.209）」、「AIサーボ時の測距点選択特性（p.210）」、「AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作（p.210）」を設定し、この機能を割り当てたボタンを押している間だけその設定内容でAFを行うことができます。AIサーボAF中にAF特性を変えたいときに有効です。

*2：217ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、「測距エリア選択モード」の設定画面が表示されます。内容を設定して [OK] を選択すると、次の設定画面が表示されます。4種類の機能を設定すると、もとの画面に戻ります。

● 〈ONE SHOT⇔AI SERVO〉ワンショット⇔AIサーボ

この機能を割り当てたボタンを押すと、ワンショットAF時に押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF設定時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

● 〈⊞〉AFフレームダイレクト選択

〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉または〈✣〉で直接AFフレームが選択できるようになります。なお〈◎〉では、横方向のAFフレームのみ選択可能です。

*3：〈✣〉のときは、217ページの手順3で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈✣〉中央押しで［中央AFフレームに移動］か、［登録AFフレームに移動］を選択することができます。

● 〈◉〉測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光のみ行います。

● 〈✱〉AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、AEロック（露出決定）します。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

● 〈FEL〉FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

● 〈Tv〉Mモード時、シャッター速度変更

〈M〉マニュアル露出時に〈⌒〉または〈◎〉でシャッター速度が設定できるようになります。

● 〈Av〉Mモード時、絞り数値変更

〈M〉マニュアル露出時に〈⌒〉または〈◎〉で絞り数値が設定できるようになります。

● 〈◀⁝〉記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面（p.58）が表示されます。

● 〈RAW JPEG〉ワンタッチRAW+JPEG

〈M-Fn〉ボタンを押して撮影すると、［ワンタッチRAW+JPEG］（p.61）で設定したRAW、またはJPEG画像も記録されます。

● 〈ピクチャースタイル〉ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.64）が表示されます。

● 〈▶〉画像の再生

〈SET〉を押すと、画像を再生します。

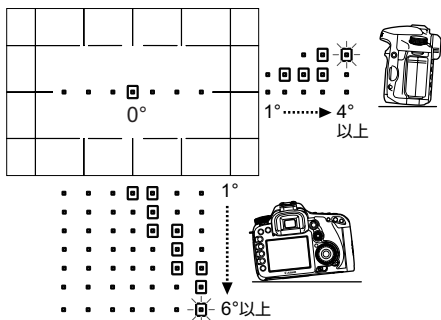
● 〈絞り込み〉絞り込み

絞り込みボタンを押すと、絞り込みを行います。

● 〈手ブレ補正〉手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈ON〉のときにボタンを押すと、レンズの手ブレ補正機能が作動します。

● 〈水準器〉ファインダー内水準器

〈M-Fn〉ボタンを押すと、ファインダー内にグリッドと、AFフレームを利用した水準器が表示されます。

● 〈MENU〉メニュー表示

〈SET〉を押すと、液晶モニターにメニューが表示されます。

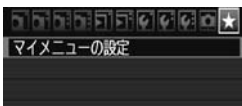
● 〈Q〉クイック設定画面

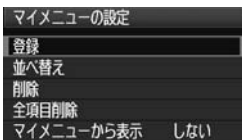
〈SET〉を押すと、液晶モニターにクイック設定画面が表示されます。

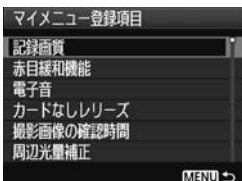
● 〈OFF〉無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。

1 ［マイメニューの設定］を選ぶ

- ［★］タブの［**マイメニューの設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［登録］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**登録**］を選び、〈SET〉を押します。

3 登録する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。［**並べ替え**］を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。［◆］が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

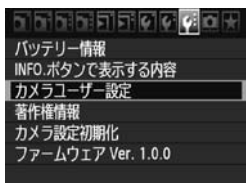
- **削除／全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。［**削除**］を選ぶと1項目ずつ削除、［**全項目削除**］を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

  ［**する**］に設定すると、メニュー画面を表示したときに［★］タブから表示されます。

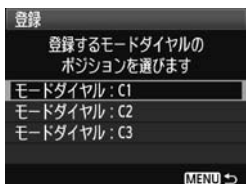
C1 カメラユーザー設定の登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されているほとんどの内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉にカメラユーザー設定として登録することができます。

1 [カメラユーザー設定] を選ぶ

- [¥:] タブの [**カメラユーザー設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [登録] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**登録**] を選び、〈SET〉を押します。

登録
登録するモードダイヤルの
ポジションを選びます
モードダイヤル：C1
モードダイヤル：C2
モードダイヤル：C3
MENU ↩

3 登録する

- 〈◎〉を回して登録するポジションを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラの設定内容 (p.224) がモードダイヤルのC＊に登録されます。

カメラユーザー設定の登録解除

手順2で [**登録解除**] を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。操作方法は手順3と同じです。

登録される設定内容

● **撮影機能**

撮影モード＋設定値、ISO感度、AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモード、露出補正量、ストロボ調光補正量

● **メニュー機能**

[撮影1] 記録画質、赤目緩和機能、電子音、カードなしレリーズ、撮影画像の確認時間、周辺光量補正、ストロボ制御（ストロボの発光、シンクロ設定、調光補正、E-TTL II 調光方式）

[撮影2] 露出補正/AEB設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間、ピクチャースタイル

[撮影3] ワンタッチRAW+JPEG

[撮影4] ライブビュー撮影、AFモード、グリッド、露出Simulation、静音撮影、測光タイマー

[動画] AFモード、グリッド、動画記録サイズ、録音、静音撮影、測光タイマー（動画撮影時）

[再生1] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、ヒストグラム、スライドショー、ダイヤルでの画像送り

[設定1] オートパワーオフ、縦位置画像回転表示、画像番号

[設定2] 液晶の明るさ、センサークリーニング（自動クリーニング）、ファインダー #

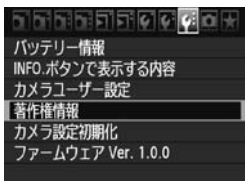
[設定3] INFO.ボタンで表示する内容

[C.Fn] カスタム機能

● マイメニューの設定内容は、登録されません。
● モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉のときは、メニューの［設定3 **カメラ設定初期化**］と［C.Fn **カスタム機能（C.Fn）一括解除**］は、選択できません。

● モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉のときも、ドライブモードやメニューなどの設定を変更することができます。なお、その変更内容を登録したいときは、前ページのカメラユーザー設定の登録操作を行ってください。
● 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.228）。

MENU 著作権情報の設定 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif情報として画像に付加されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［🔧:］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- ［**著作権情報の表示**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報が確認できます。
- ［**著作権情報の消去**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報を消去できます。
- 〈◎〉を回して［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 文字の入力画面が表示されます。

3 文字を入力する

- 次ページの『文字の入力方法』を参照し、著作権情報を入力します。
- 半角英数字／記号で最大63文字入力することができます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が完了したら、〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

文字の入力方法

● **入力エリアの切り換え**

〈⊡〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

● **カーソルの移動**

〈◎〉を回すとカーソルが移動します。〈✲〉でも移動できます。

● **文字の入力**

下側のエリアで〈◎〉を回して文字を選び、〈SET〉を押して文字を入力します。〈✲〉の上下左右押しで文字を選び、中央押しで文字を入力することもできます。

● **文字の削除**

〈🗑〉ボタンで消去します。

● **入力の終了**

〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

● **入力のキャンセル**

〈INFO.〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

12

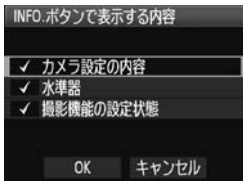
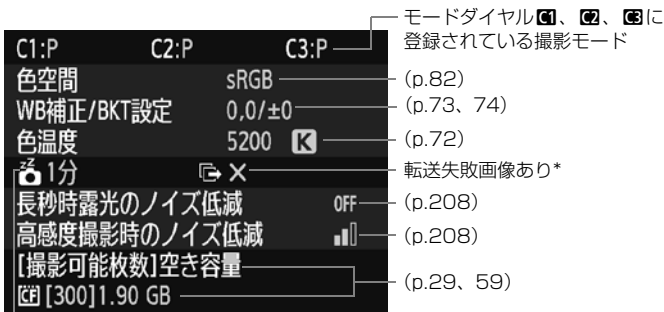
資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようになっています。

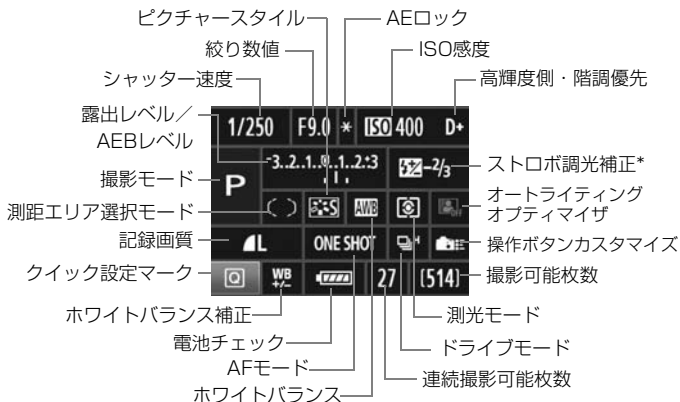
INFO.ボタンの機能

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」と「撮影機能の設定状態」(p.225)、[水準器](p.48)を表示することができます。

[🔧]タブの[INFO.ボタンで表示する内容]で、〈INFO.〉ボタンを押して表示する項目を選ぶことができます。

- 〈◎〉を回して使用する項目を選び、〈SET〉を押して〈✓〉マークを付けます。
- 選択が終わったら〈◎〉を回して[OK]を選び、〈SET〉を押します。

カメラ設定の内容

* ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E5B使用時に、転送失敗画像があるときのみ表示されます。

撮影機能の設定状態

* 外部ストロボ側で調光補正を設定すると、ストロボ調光補正のマークが、[ストロボ調光補正マーク]から[外部ストロボ調光補正マーク]に変わります。

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定画面（p.38）になります。
- 〈ISO・[ストロボ調光補正]〉、〈AF・DRIVE〉、〈[測光]・WB〉、〈[AFフレーム選択]〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈[メイン電子ダイヤル]〉または〈[サブ電子ダイヤル]〉で設定を行うことができます。AFフレームは〈[マルチコントローラー]〉で選択することもできます。

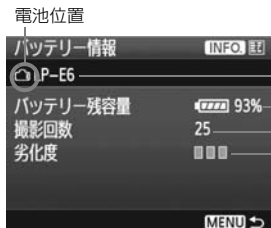
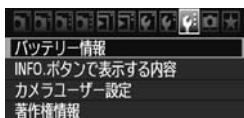
「撮影機能の設定状態」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して液晶モニターに画面が表示されていない状態で電源を切ります。

MENU 電池情報を確認する

　使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残容量や、使用履歴を画面で確認することができます。

[バッテリー情報] を選ぶ

- [¥:]タブの[**バッテリー情報**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。

電池位置

- 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
- 残量が、電池チェック表示（p.28）とともに、1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

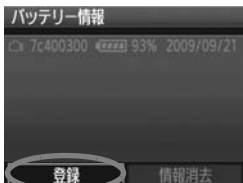
バッテリーパック LP-E6以外の電池は使用しないでください。カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- バッテリーグリップ BG-E7に、バッテリーパック LP-E6を2個入れたときは、2個分の電池情報が表示されます。
- バッテリーグリップ BG-E7に単3形電池を使用したときは、電池チェック表示の情報のみ表示されます。
- 何らかの原因で電池と通信できないときは、表示パネルとファインダー内の電池チェックが〈 〉の表示になります。[**バッテリーと通信できません**] と表示されますが、[**OK**] を選ぶとそのまま撮影できます。

電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

1 〈INFO.〉ボタンを押す

● バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
➡ 使用履歴画面が表示されます。
➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。

2 [登録] を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**登録**］を選び、〈SET〉を押します。
➡ 確認画面が表示されます。

3 [OK] を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。
➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
➡ 表示が灰色から白色に変わります。
● 〈MENU〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

● バッテリーグリップ BG-E7に単3形乾電池を装填しているときや、電源にACアダプターキット ACK-E6を使用しているときは登録できません。
● すでに電池が6個登録されているときは、［**登録**］は選べません。233ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

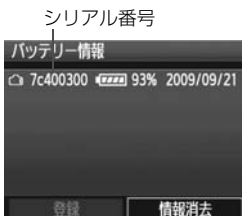
電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

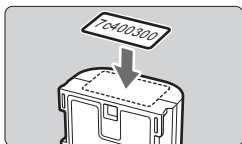
登録したバッテリーパック LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。

シリアル番号

バッテリー情報

7c400300 93% 2009/09/21

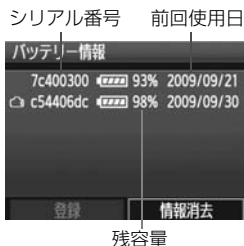
登録 情報消去

1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。

2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。

登録済みで使用していない電池の残容量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残容量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。
- ➡ 手元にある電池のおおよその残容量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 ［情報消去］を選ぶ

- 231ページの手順2で［**情報消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去する電池を選び、〈SET〉を押します。
- ➡〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈 〉ボタンを押す

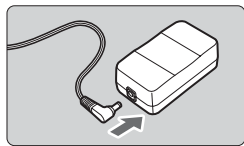
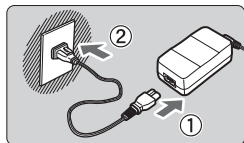
- ➡ 確認画面が表示されます。

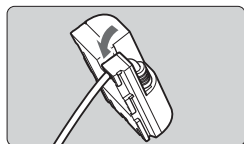
4 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

家庭用電源を使用する

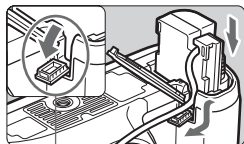
　ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

DCカプラーコード
通し部

4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

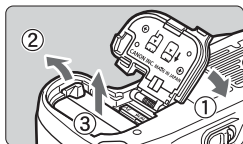
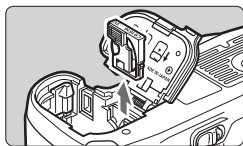
カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

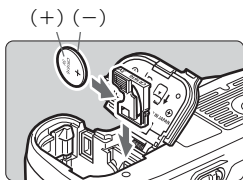
日付／時計機能用電池を交換する

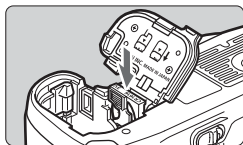
日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電池を入れたときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、新しいCR1616リチウム電池を次の手順で交換してください。

日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください（p.42）。

1 電源スイッチを〈OFF〉にする

2 電池を取り出す

3 電池ホルダーを取り外す

4 電池を入れ換える

- ＋－を正しく合わせて入れます。

5 電池ホルダーを入れる

- そのあと、電池を入れて、ふたを閉じます。

日付/時計機能用電池は、必ずCR1616リチウム電池を使用してください。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　▭：選択不可

モードダイヤル		□	CA	P	Tv	Av	M	B
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○
	RAW	○	○	○	○	○	○	○
	RAW + JPEG	○	○	○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定			○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	スタンダード	●	○	○	○	○	○	○
	ポートレート		○	○	○	○	○	○
	風景		○	○	○	○	○	○
	ニュートラル			○	○	○	○	○
	忠実設定			○	○	○	○	○
	モノクロ		○	○	○	○	○	○
	ユーザー設定			○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB			○	○	○	○	○
	マニュアルWB			○	○	○	○	○
	色温度指定			○	○	○	○	○
	WB補正			○	○	○	○	○
	WBブラケティング			○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB			○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	○	○	○	○	○
周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減				○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先				○	○	○	○	○

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル			□	CA	P	Tv	Av	M	B
AF	ワンショット				○	○	○	○	○
	AIサーボ				○	○	○	○	○
	AIフォーカス		●	●	○	○	○	○	○
	AFフレーム選択	自動	●	●	○	○	○	○	○
		任意			○	○	○	○	○
	AF補助光		●	●	○	○	○	○	○
測光方式	評価測光		●	●	○	○	○	○	○
	部分測光				○	○	○	○	○
	スポット測光				○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光				○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト			○*1	○				
	露出補正			○*2	○	○	○		
	AEB				○	○	○	○	
	AEロック				○	○	○		
	被写界深度確認				○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影		●	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影				○	○	○	○	○
	低速連続撮影			○	○	○	○	○	○
	セルフ10秒/リモコン		○	○	○	○	○	○	○
	セルフ2秒/リモコン				○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光		●	○					
	手動発光			○	○	○	○	○	○
	発光禁止			○					
	赤目緩和		○	○	○	○	○	○	○
	FEロック				○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正			○*2	○	○	○	○	○
ライブビュー撮影			○	○	○	○	○	○	○
動画撮影			○	○	○	○	○	○	○

*1：54ページ『②背景をぼかす／くっきりさせる』の機能です。

*2：54ページ『③写真を暗くする／明るくする』の機能です。

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S／S RAW／M RAW／S RAW	58
赤目緩和機能	切／入	112
電子音	入／切	−
カードなしレリーズ	する／しない	29
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	56
周辺光量補正	する／しない	76
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	115

撮影2（赤）

露出補正／AEB設定	1/3段ステップ、±5段（AEB±3段）	105
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	75
ホワイトバランス	AWB／☀／⌂／☁／✺／▦／ϟ／▲／K（2500～10000）	70
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	71
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 WB-BKT：ホワイトバランスブラケティング	73 74
色空間	sRGB／Adobe RGB	82
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／L風景／Nニュートラル／F忠実設定／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	64 ～ 69

[ ] の項目は、全自動（□/CA）モードでは表示されません。

撮影3（赤）

		参照頁
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理するためのデータを取得	185
ワンタッチRAW+JPEG	必要なときだけRAWとJPEGを同時記録	61

撮影4（赤）

ライブビュー撮影	する／しない	136
AFモード	ライブモード／顔ライブモード／クイックモード	138
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯	136
露出Simulation	する／しない	136
静音撮影	モード1／モード2／しない	137
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	137

*動画撮影モードは、242ページ参照。

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	178
画像回転	画像の縦横回転	168
画像消去	画像の消去	179
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	199
外部メディアへのバックアップ	WFT-E5B（別売）経由、外部メディア使用時に表示	–

再生2（青）

ハイライト警告表示	しない／する	163
AFフレーム表示	しない／する	163
ヒストグラム	輝度／RGB	164
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピートを設定して自動再生	174
電子ダイヤルでの画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画	166

機能設定1（黄）

		参照頁
オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	44
縦位置画像回転表示	する／する／しない	182
カード初期化	記録内容を初期化して消去	43
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	80
フォルダ選択	フォルダの作成と選択	78
WFTの設定	WFT-E5B（別売）装着時に表示	–
記録機能と メディア選択	WFT-E5B（別売）経由、外部メディア使用時に表示	–

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	自動：3段階の明るさ調整 手動：7段階の明るさ調整	181
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	42
言語	言語を選択	42
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	176
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	184
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	187
ファインダー #	表示しない／表示する	47

機能設定3（黄）

		参照頁
バッテリー情報	型式、残容量、撮影回数、劣化度、電池の登録、使用履歴確認	230
INFO.ボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／撮影機能の設定状態	228
カメラユーザー設定	モードダイヤルのC1、C2、C3に現在のカメラ設定を登録	223
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	225
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	45
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	－

カスタム機能（橙）

C.Fn I ：露出	カメラの機能を細かく設定する	206
C.Fn II ：画像		208
C.Fn III：AF・ドライブ		209
C.Fn IV：操作・その他		215
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	204

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	222

動画撮影設定時のメニュー機能

動画（赤）

参照頁

AFモード	ライブモード／顔ライブモード／クイックモード	156
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯	156
動画記録サイズ	1920×1080（30／25／24）／ 1280×720（60／50）／ 640×480（60／50）	156
録音	する／しない	157
静音撮影	モード1／モード2／しない	157
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	157

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電されない

● バッテリー残容量（p.230）が94％以上のときは、充電は行われません。
● キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

● (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2〜3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

● 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

● 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.26）。
● 電池を充電してください（p.24）。
● 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.26）。
● カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.29）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使ってください（p.24）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。メニュー［**バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.230）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- クイック設定画面を表示したままにしたり（p.38）、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと（p.131、149）、撮影可能枚数が少なくなります。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

撮影関連

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.29）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.29、179）。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.35、92）。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください（p.26）。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.31）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.34、35）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、30ページ、または249ページを参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- ［**C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**標準/弱め/しない**］のいずれかに設定してください。［**強め**］に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が少なくなります（p.208）。
- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、59ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

- ［**C.Fn II -3：高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO100に設定できません。［**しない**］に設定すると、ISO100が設定できるようになります（p.209）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［**C.Fn I -7：Avモード時のストロボ同調速度**］を、1または2に設定してください（p.207）。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボが発光しない

- カメラに外部ストロボ（またはシンクロコード）がしっかり取り付いているかどうか確認してください。
- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、メニュー［z: 静音撮影］を［しない］に設定してください（p.137）。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.133）。

ライブビュー撮影ができない

- ライブビュー撮影を行うときは、メモリーカードを使用してください（ハードディスクタイプのカードの使用はおすすめできません）。ハードディスクタイプのカードは、メモリーカードよりも使用可能温度が低いため、ハードディスクを保護する機能が作動して、ライブビュー撮影が一時的にできなくなることがあります。カメラ内部の温度が下がると、ライブビュー撮影ができるようになります（p.146）。

操作部の機能が入れ替わっている

- ［C.Fn IV -1：操作ボタンカスタマイズ］の内容を確認してください（p.215）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。実際の書き込み/読み取り速度が8MB/秒以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販のマイクの使用をおすすめします（p.158）。

表示・操作関連

ファインダー AFフレームの表示速度が遅い

- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターがよごれているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 全自動（□/CA）モードでは一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**にしてください（p.40）。

画像の一部が黒く点滅する

- メニュー［▶ ハイライト警告表示］が［する］に設定されています（p.163）。

画像に赤い枠が表示される

- メニュー［▶ AFフレーム表示］が［する］に設定されています（p.163）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_MG_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.82）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります（p.80）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.42）。

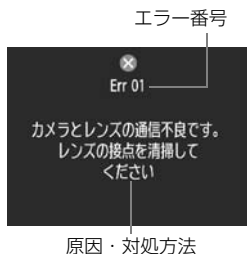
テレビに画像が表示されない

- AVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.176、177）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.240）。
- 付属のAVケーブルを使用してください（p.176）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.194）。

エラー表示

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.13、16）
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.29、43）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.29、179、43）
05	内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源スイッチを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.27）
06	センサークリーニングができませんでした。電源スイッチを入れなおしてしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.27）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80	エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.27、26）

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

システム図

ST-E2
270EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト MR-14EX
マクロツインライト MT-24EX
リモートコントローラー RC-5
リモートコントローラー RC-1
主な付属品
視度補正レンズEg
アイカップEg
アンチフォグアイピースEg
アングルファインダーC
ワイドストラップ EW-EOS7D
日付/時計機能用 CR1616 リチウム電池
バッテリーパック LP-E6
バッテリーチャージャー LC-E6
レザーケース EH20-L
ACアダプター AC-E6
DCカプラー DR-E6
ACアダプターキット ACK-E6
バッテリーグリップ BG-E7
バッテリーマガジン BGM-E6
カーバッテリーケーブル CB-570
カーバッテリーチャージャー CBC-E6

タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモート
スイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-5
EFレンズ
EF-Sレンズ
外部マイク
HDMI ケーブル HTC-100
AVケーブル AVC-DC400ST
テレビ／ビデオ
USB外部メディア
ワイヤレスファイルトランスミッター
WFT-E5B
USB GPSユニット
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
無線LAN
アクセスポイント
無線LANアダプター
Ethernet端子
インターフェースケーブル
IFC-200U
インターフェースケーブル IFC-500U
パソコン
USBポート
Windows Vista
Windows XP
Mac OS X
オリジナルデータ
セキュリティキット
OSK-E3
カードリーダー
PCカードスロット
CFカード
PCカードアダプター
PictBridge対応プリンター

主な仕様

■型式

型式.................................... ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................ CFカード（タイプI、II準拠、UDMA対応）
撮像画面サイズ................. 22.3×14.9mm
使用レンズ........................ キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント................. キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.................................... CMOSセンサー
カメラ部有効画素............. 約1800万画素
アスペクト比..................... 3：2
ダスト除去機能................. 自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット............. DCF2.0
画像タイプ........................ JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数........................ L（ラージ）　：約1790万（5184×3456）画素
M（ミドル）　：約800万（3456×2304）画素
S（スモール）：約450万（2592×1728）画素
RAW　　　　：約1790万（5184×3456）画素
M-RAW　　　：約1010万（3888×2592）画素
S-RAW　　　：約450万（2592×1728）画素
フォルダ作成/選択........... 可能

■画像処理

ピクチャースタイル.......... スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス............. オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（2500～10000K）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* 色温度情報通信対応
ノイズ低減........................ 長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正...... オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先........... 可能
レンズ周辺光量補正.......... 可能

■ファインダー

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下/左右とも約100%
倍率……約1.0倍（50mmレンズ・∞・−1m^{-1}）
アイポイント……約22mm（−1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲……−3.0〜+1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン…固定式
構図表示……グリッド、水準器
ミラー……クイックリターン式
被写界深度確認……可能

■オートフォーカス

方式……TTL二次結像位相差検出方式
測距点……19点（全点クロス測距）
輝度範囲……EV−0.5〜18（常温・ISO100）
フォーカスモード……ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
測距エリア選択モード……1点AF、スポット1点AF、領域拡大AF、ゾーンAF、19点自動選択AF
AF補助光……内蔵ストロボ間欠発光方式
AF微調整……AFマイクロアジャストメントにより対応

■露出制御

測光方式……63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9.4%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約2.3%）
・中央部重点平均測光
測光範囲……EV1〜20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式……プログラムAE（全自動、クリエイティブ全自動、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ
ISO感度（推奨露光指数）……全自動、クリエイティブ全自動 :ISO 100〜3200自動設定
P, Tv, Av, M, B：ISO 100〜6400任意設定（1/3段ステップ）、自動設定、および12800の感度拡張が可能
露出補正……手動、AEB（手動露出補正との併用可能）
補正量：1/3、1/2段ステップ±5段（AEB±3段）
AEロック……自動:ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式.................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 .... 1/8000～1/60秒（全自動モード)、X=1/250秒
1/8000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）

■ストロボ

内蔵ストロボ .... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー 12（ISO 100・m）
焦点距離 15mm相当の画角に対応
充電時間約3秒
ワイヤレスマスター機能装備
外部ストロボ .... EXシリーズスピードライト(カメラ側操作で機能設定可能)
調光方式............................ E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック .... 可能
シンクロ端子 .... あり

■ドライブ関係

ドライブモード .... 1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、セルフタイマー10秒/リモコン、セルフタイマー 2秒/リモコン
連続撮影速度 最高約8コマ/秒
連続撮影可能枚数 .... JPEGラージ/ファイン：約94（126）枚
RAW：約15（15）枚
RAW+JPEGラージ/ファイン：約6（6）枚
* 当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定
* （ ）内の数値は、当社試験基準Ultra DMA（UDMA）対応4GBカード使用時の枚数

■ライブビュー撮影機能

フォーカス........................ ライブモード、顔優先ライブモード（コントラスト検出方式）
クイックモード（位相差検出方式）
手動ピント合わせ（5倍/10倍拡大確認可能）
測光方式............................ 撮像素子による評価測光
測光範囲............................ EV 1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
静音撮影............................ 可能（モード1、2）
グリッド表示 2種類

■動画撮影機能

映像圧縮方式 ....MPEG-4 AVC
可変（平均）ビットレート方式
音声記録方式 ....リニアPCM
記録形式 ....MOV形式
記録サイズと
フレームレート..................1920×1080（Full HD）: 30p/25p/24p
1280×720（HD） : 60p/50p
640×480（SD） : 60p/50p
* 30p : 29.97fps、25p : 25.0fps、24p : 23.976fps、60p : 59.94fps、50p : 50.0fps
ファイルサイズ..................1920×1080（30p/25p/24p）: 約330MB/分
1280×720（60p/50p） : 約330MB/分
640×480（60p/50p） : 約165MB/分
フォーカス ....ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測光方式 ....撮像素子による評価測光と中央部重点平均測光
* フォーカスモードにより自動設定
測光範囲 ....EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御 ....動画撮影用プログラムAE（露出補正可能）、マニュアル露出
ISO感度 ....ISO100～6400自動設定、感度拡張12800
マニュアル露出時ISO100～6400自動/手動設定
音声録音 ....内蔵モノラルマイク
外部ステレオマイク端子装備
グリッド表示 2種類

■液晶モニター

形式....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数.......3.0型/約92万ドット（VGA）
視野率................................約100%
明るさ調整 ....自動、手動
水準器表示 ....可能
メニュー表示言語..............日本語、英語

■再生機能

画像表示形式 .... 1枚、1枚＋情報（記録画質、撮影情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率 .... 約1.5～10倍
画像表示検索 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画
ハイライト警告 .... ハイライト部分点滅表示
スライドショー .... 全画像/フォルダ/日付/動画/静止画
動画再生 .... 可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）
スピーカー内蔵

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター .... PictBridge対応プリンター
印刷対応画像 .... JPEG画像、RAW画像
印刷指定 .... DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能 27種
カメラユーザー設定.......... モードダイヤルのC1、C2、C3に登録
マイメニュー登録 .... 可能
著作権情報の付加 .... 設定と付加可能

■インターフェース

映像/音声出力・
デジタル端子 .... アナログ映像（NTSC, PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB相当）
HDMIミニ出力端子.......... タイプC（解像度自動切り換え）
外部マイク入力端子.......... Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子 N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン.......... リモートコントローラー RC-1、RC-5に対応
拡張システム端子 .... ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E5B接続用

■電源

使用電池............................バッテリーパックLP-E6、1個
* ACアダプターキットACK-E6使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E7装着時、単3形電池使用可能
電池情報............................残容量、撮影回数、劣化度確認可能
撮影可能枚数の目安..........ファインダー撮影：
(CIPA試験基準による)　常温（23℃）約800枚/低温（0℃）約750枚
ライブビュー撮影：
常温（23℃）約220枚/低温（0℃）約210枚
動画撮影可能時間.............常温（23℃）約1時間20分
低温（0℃）約1時間10分
（フル充電のバッテリーパックLP-E6使用時）

■大きさ・質量

大きさ................................148.2（幅）×110.7（高さ）×73.5（奥行）mm
質量....................................約820g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度.....................0℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下

■バッテリーパック LP-E6

形式....................................リチウムイオン電池
公称電圧............................DC7.2V
容量....................................1800mAh
大きさ................................38.4（幅）×21（高さ）×56.8（奥行）mm
質量....................................約80g

■バッテリーチャージャー LC-E6

充電可能電池.....................バッテリーパック LP-E6
充電時間............................約2時間30分
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................DC8.4V/1.2A
使用可能温度.....................+5℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ................................69（幅）×33（高さ）×93（奥行）mm
質量....................................約130g

■EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM

画角.................................... 対角線：84°30′～18°25′
水平：74°10′～15°25′
垂直：53°30′～10°25′
構成枚数............................ 12群17枚
最小絞り............................ F22-36
最短撮影距離..................... 0.35m（撮像面から）
最大撮影倍率..................... 0.21倍（85mm時）
画界.................................... 255×395mm～72×108mm（0.35m時）
手ブレ補正機能................. レンズシフト式
フィルター径..................... 72mm
レンズキャップ................. E-72U
最大径×長さ..................... 81.6×87.5mm
質量.................................... 約575g
対応フード......................... EW-78E（別売）
対応ケース......................... LP1116（別売）

■EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS

画角.................................... 対角線：74°20′～11°30′
水平：64°30′～9°30′
垂直：45°30′～6°20′
構成枚数............................ 12群16枚
最小絞り............................ F22-36
最短撮影距離*................... 焦点距離18mm：0.49m（画界327×503mm）
焦点距離135mm：0.45m（画界75×112mm）
* 撮像面からの距離
最大撮影倍率..................... 0.21倍（135mm時）
手ブレ補正機能................. レンズシフト式
フィルター径..................... 67mm
レンズキャップ................. E-67U
最大径×長さ..................... 75.4×101mm
質量.................................... 約455g
対応フード......................... EW-73B（別売）
対応ケース......................... LP1116（別売）

■EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS

画角....................................対角線：74°20′～7°50′
水平：64°30′～6°30′
垂直：45°30′～4°20′
構成枚数............................12群16枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離.....................0.45m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.24倍（200mm時）
画界....................................452×291mm～93×62mm（0.45m時）
手ブレ補正機能.................レンズシフト式
フィルター径.....................72mm
レンズキャップ.................E-72
最大径×長さ.....................78.6×102mm
質量....................................約595g
対応フード.........................EW-78D（別売）
対応ケース.........................LP1116（別売）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6以外は充電できません。
- バッテリーパック LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索　引

英数字

あ

た

な

は

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2009年9月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5244 - 002 PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0